

神奈川工科大学広報

KANAGAWA  
INSTITUTE  
OF  
TECHNOLOGY

# Kait

No.179

2015年4月開設

看護学部 看護学科  
工学部 臨床工学科

スタートから3ヶ月の「学び」は今。

〈特集〉

本学の学生サポート

学科TOPICS  
office information

2015年4月  
開設

# 看護学部 看護学科 工学部 臨床工学科

## 看護学部 看護学科

### 人の生命の輝きを支える看護職をめざして

看護学の基礎的な知識と基本的な技術、そして実践能力はもちろん、看護学研究に対する思考力と創造性をも身につけた高度な看護師の養成を目的に今年4月に開設された看護学科。現在、男子12名、女子69名の計81名が最先端の設備が整った看護医療棟を中心に質の高い学習・生活環境の中、意欲的に授業に取り組んでいます。本学で特に身につけてほしいこと、めざす看護師像、さらに、現在の授業内容や学生たちの様子などについて看護学部長・三澤久恵教授と看護学科長・田村幸子教授にお聞きしました。



看護学部看護学科 学部長  
三澤 久恵 教授



看護学部看護学科 学部長  
田村 幸子 教授

### 人間性を豊かにし その人らしく生きることを支える

**編集部**：本学の看護学科で、特に身につけて欲しいことは何でしょうか？

**三澤教授**：講義から演習、そして実習へと、4年間の濃密な授業全体を通して身につける知識と技術はもちろんですが、私の一番の願いは「自分の人間性を豊かにして欲しい」ということです。看護学は一人ひとりの人間の全人格にかかわる仕事といっても過言ではありません。そこに必要となるのは本学科の基本理念でもある「人間愛」の精神です。他学部の学生と一緒に受ける授業や、クラブ活動を通じての多くの学生やさまざまな人との交流、また、読書をしたり芸術などに触れたりすることで培われる豊かな教養も必要だと思います。それらが人間力や科学的思考の基本になると考えています。

**編集部**：三澤先生がお考えになる「看護師の使命」についてお聞かせ下さい。

**三澤教授**：ひと言でいいますと「その人らしく生きることを支える」ではないでしょうか。基本的に看護というのは看護する対象者に対して少しでも快適な日常生活が過ごせるように、その人の持っている生きる力＝自然治癒力に働きかけるというのがその使命で、これはナイチンゲールの主張するところでもあり、「ヒューマンケア」といえます。そのためには理論や概念といった頭だけで考えて対応するのではなく、目の前にいる患者さんの表情や仕草などを通して、今何を考え、何を求めているのか…。しっかりと理解して接することが大切だと思います。同時に相手を思い理解すると共に自らを知ること求められます。豊かな知識や技術に加えてこうした思いやる姿勢と自分をしっかりと見据え知ることがあってはじめて「その人らしく生きることを支える」ことができると考えています。

### 基礎・基本を徹底しながら 7月には実際の現場で看護実習がスタート

**編集部**：看護学科が新学科としてスタートを切ってから約3ヶ月経ちました。授業の進行状況はいかがですか。

**田村教授**：現在、学生が履修しているのは、看護学における基本的な知識と技術を修得するための科目が中心です。例えば、専門基礎系の科目では「形態機能学（人体の構造と機能を学ぶ科目）」や「感染免疫学（感染の基本を学ぶ科目）」があり、看護専門科目では「基礎看護学概論」や「基礎看護技術」などがあります。いずれも看護の実践能力を習得していくために、必要不可欠な土台の部分の部分を学んでいます。

**編集部**：まずは基礎・基本を盤石に、ということですね。

**田村教授**：はい。基礎をしっかりと固めないと、応用へとステップアップができません。また、「スタディスキル（大学の学び方を学ぶ科目）」では、学習のスキル自体も学びます。これはいわゆる初年次教育にあたるもので、論理的な思考や、効果的なレポート作成、授業ノートのとり方、グループワーク・グループ討議を通じて自らの考えをプレゼンすることなどを学んでいます。

**編集部**：7月には、もう病院での第1回目の看護実習が始まりますね。

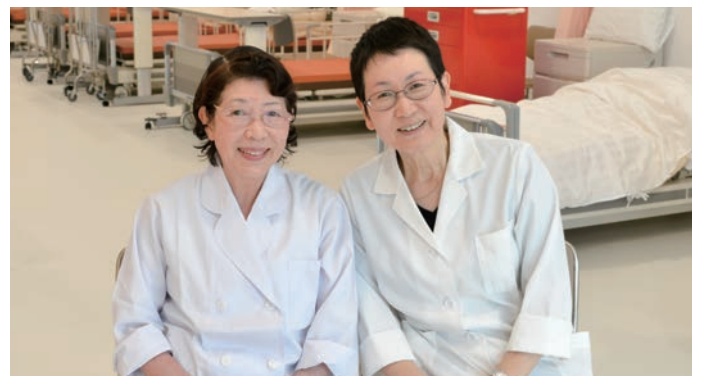
**三澤教授**：1グループ6人で、5つの病院の複数の病棟で1週間実習を行います。シャドウイングといまして、雛が親鳥の後ろを追うように病棟の看護師さんの後をついて、どのような仕事をしているのか、チームや患者さんとのようなやり取りをしているのか、一挙手一投足を漏らさず自分の目で確かめていきます。また実際に入院されている患者さんとお話する機会も設けていただき、患者さんの気持ちにも触れて、またチーム医療の一端もみてほしいと思います。今はまだ基礎を徹底している段階ですが、実習経験後は、おそらく一回りも二回りも大きくなるのではないかと期待しています。

### 病院・施設・在宅の実習で患者さんと接し自らを鍛える 災害時に対応でき、医療機器にもつよい看護職養成を

**編集部**：1年次から2年次へ向けて、さらにその後の展望をお聞かせ下さい。

**田村教授**：1年次はまだ看護の概論が中心ですが、2年次になると小児看護や成人看護、老年看護など人間の発達段階に応じた看護の方法論や、母性看護や精神看護、在宅看護、公衆衛生看護など看護を提供する場や状況に応じた方法論が用意されています。さらに3年次後期と4年次前期には年間を通じて病院や施設や在宅の実習に明け暮れます。この時には実際に患者さんを受け持ち、その人との会話や観察を通じて、この人はどのような考えや価値観をもった人であるか、どのような環境下であり、どのような健康問題を抱え、どのような健康行動をとっているか等と理解し、その人の健康問題や日常生活をよい方向に持っていくにはどう支援したらよいのか、患者さんの個別の状況に応じて学びます。臨床実習を通じて学生は自らを鍛え、大きく成長していきます。

**三澤教授**：また、災害という特殊な状況下で、緊急援助活動に寄与する「災害看護学」や患者さんに医療機器を説明できるように「医療機器と在宅技術」という科目もあり、幅広い学びも用意しています。保健師や養護教諭の資格が取れる科目もあります。こうした学びを通して、看護師としての豊かな人間性と確かな資質と能力を身につけ、人の生命の輝きを支える看護師の基礎作りをめざして欲しいと願っています。



# スタートから3ヶ月の「学び」は今。

## 工学部 臨床工学科

国家資格「臨床工学技士」養成学科

### 医療の現場に即応できる臨床工学技士をめざして

確かな技術を医療で活用できる臨床工学技士の養成を目的に、今年4月に開設された臨床工学科。現在、男子31名、女子13名の計44名が最先端機器が揃った新しい施設のもと、医療に関する専門知識や技術、工学的専門知識を学び始めました。授業内容や学科内の雰囲気、特徴的な教育システムなどを臨床工学科学科長の松尾崇教授と、臨床工学科鈴木聡教授にお聞きしました。

### 医学と工学の境界領域を通して 臨床工学技士としての基礎を徹底

**編集部**：臨床工学科が新学科としてスタートして約3ヶ月経ちましたが、授業の進行状況はいかがですか。

**松尾教授**：現在行われているのは、臨床工学技士としての知識と技術を修得するための基礎となる科目です。例えば医学と工学の境界領域を学ぶ「医用工学概論」や「医用機器学概論」、医学分野からは「医学概論」や「解剖学」、工学分野からは電気工学のベースの部分や「電気工学」や「応用数学」といった科目を履修しています。臨床工学技士は、人工呼吸器・人工心肺装置・透析装置などの生命維持管理装置を扱う専門職。人体の構造や機能などの医学的基礎と電気・電子工学、機械工学、情報工学といった広範囲な工学的基礎の両方をしっかりと身につけておくことが大切です。現在はこれらの基盤となる知識と技術の基礎部分を徹底して学んでいる段階です。

**編集部**：授業を受けている学生の皆さんの反応はいかがですか。

**松尾教授**：集中力が高く、出席率もよく真面目に取り組んでいます。理工系の学生は大人しいといわれますが、質問も多いですしとても積極的です。



工学部臨床工学科  
鈴木聡 教授  
臨床工学技士

**編集部**：ところで、1期生の出身地は幅広いそうですね。

**松尾教授**：確かに北は北海道から南は九州・鹿児島まで、全国各地から入学しています。

**編集部**：学修指導において大切にされていることはなんですか。

**鈴木教授**：国家試験は一つの目標ですが、何より大切なのは、就職して実際の臨床現場で目の当たりにするさまざまな事態に対応できる応用力。ここは生命維持に関わる現場ですから「習ってないからできません」は通用しません。どのような事態でも沈着冷静に対応できる能力が求められます。それを身につけるためには、どのような時でも仕事にプライドを持ち、常に学ぶ意欲を持つなど自らを高めていく姿勢を育てることだと思います。それを念頭に特に学生のモチベーションをアップし維持することに注意して対応しています。

**編集部**：具体的にはいかがでしょうか。

**鈴木教授**：例えば、臨床工学技士に関連が深く、学生でも受験が可能な試験「ME検定（日本生体医工学会）第1種・第2種」に対するサポートは、他の教員と協力して行っています。また、部屋をいつもオープンにして、私の臨床の体験談や、医療機器開発を行っていた時のエピソードを披露するなどしています。その他にも夏休みなどに計画しているのは、小グループを編成して病院で臨床工学技士が実際に働いている現場を見学したり、各種医用機器フェアに行き医用機器の最新情報に触れたり。時には透析患者さんに来ていただき、苦労話などをお話いただくなど、学



工学部臨床工学科 学科長  
松尾崇 教授

生の興味を喚起するようなさまざまなプログラムで対応していきたいと思っています。

### 他学科とも密接に連携し 人間工学的な視点や問題解決能力を育成

**編集部**：本学科ならではの教育システム、その特徴についてお聞かせ下さい。

**松尾教授**：本学は工学系の総合大学です。本学科が所属している工学部以外にも、創造工学部、情報学部、応用バイオ科学部、看護学部などいろいろな学部があって学科也多岐にわたっています。臨床工学科と密接なつながりを持つ学科も多いのが特徴です。例えば医療機器は、操作する人には使いやすく、人為的ミスが起こりにくいものでなければなりませんし、患者さんに対しても安全で恐怖心を与えないことが大切です。その実現には人間工学的な視点が欠かせません。その意味で人間工学にかかわる学科はまさに本学科と直接関係が深いと思います。人間工学に関する考え方や方法論、人が犯すミスの構造などを学んで、安全かつ、確実な医療ができる力を養います。さらに、工学の最新の技術は早いスピードで医療に活用されています。本学のように最新の工学技術が研究され、その成果を学べる環境にあることは、将来臨床の現場で働く際に、新規の技術に対応できるなど大きなメリットがあると考えられます。

### 国家試験合格はもちろん 最新の技術にも即応できる人材を

**編集部**：将来、学生たちにどのような臨床工学技士をめざして欲しいとお考えですか。

**鈴木教授**：学生たちの最大の目標でありハードルは何より国家試験合格だと思います。しかしそれはゴールではなくあくまでもスタートライン。さきほど触れましたが、その先、実際に現場に立ったときのことをきちんと伝えと同時に、さまざまな事態に対応できる実力を身につけて欲しいと願っています。また、現在の学生が現場のリーダーとして活躍するのは10～20年後のことです。その間に新たな技術が応用され、例えば透析は今のシステムではなくなくなってしまいかもかもしれません。さらには、手術支援ロボットのような工学技術がますます使われるようになり、それに伴い管理技術も高度なものが要求されていくでしょう。それらを安全に運用することは、臨床工学技士の重要な仕事になってきています。将来を見据え、変化にも素早く対応できる能力を持つ臨床工学技士になって欲しいと思っています。



質の高い学習・生活環境

# 「看護医療棟」

看護医療棟には、看護学科関連施設として、4つの実習室およびこれをサポートする2つの準備室、個別演習室があります。また、臨床工学科関連施設として臨床工学実習室を設置しています。この他、別棟には基礎工学実習室と基礎医学実習室があります。



## 看護学科関連施設

### ■基礎・精神看護学実習室

ベッド21台、各種人体モデルや種類別の注射シミュレータなどの実習機器・器具があります。



### ■成人・老年看護学実習室

ベッド15台、各種演習用人体モデル、心電計などの実習機器・器具があります。



### ■母性・小児看護学実習室

沐浴槽、新生児ベッド、小児モデル人形、乳児・幼児用ベッドなどの実習機器・器具があります。



### ■在宅・公衆衛生看護学実習室

車いす、歩行補助機器、在宅モデル室、介護用品などの実習機器・器具があります。

## 看護学部看護学科 教員紹介



基礎看護学  
岩永 秀子 教授



基礎看護学  
小倉 邦子 准教授



基礎看護学  
葛西 朱美 准教授



基礎看護学  
中島 正世 講師



基礎看護学  
深澤 拓方 助教



基礎看護学  
西 法子 助手



成人看護学  
田村 幸子 教授 学科長



成人看護学  
中谷 啓子 教授



成人看護学  
大野 明美 講師



成人看護学  
田代 桂子 助手



成人看護学  
中林 誠 助手



老年看護学  
三澤 久恵 教授 学部長



老年看護学  
畠山 玲子 講師



老年看護学  
坂東 美知代 助教



老年看護学  
佐口 清美 助手



小児看護学  
久保 恭子 教授



小児看護学  
川島 雅子 講師



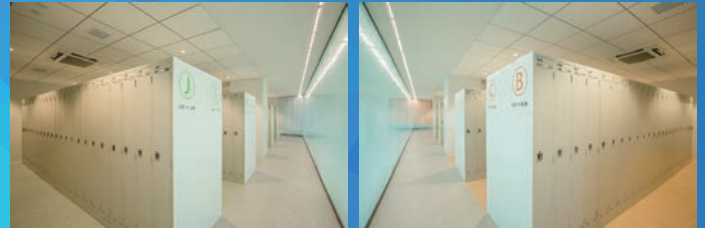
小児看護学  
宍戸 路佳 講師



■国家試験対策室



■2階ラウンジ  
憩いの場所のラウンジは、2階ロッカー室に面して設置されています。



■男子・女子ロッカー室



## 臨床工学科関連施設

### ■臨床工学実習室

人工呼吸器、人工心肺装置、除細動器のほか、さまざまな実習機器・器具を設置しています。このほか、別棟に基礎工学実習室と基礎医学実習室を設置しています。



## 工学部臨床工学科 教員紹介



母性看護学  
小林 由美 教授



母性看護学  
青木 真希子 助手



精神看護学  
寺岡 貴子 准教授



磯村 恒 教授 副学長



鈴木 聡 教授



松尾 崇 教授 学科長



精神看護学  
松浦 彰護 助教



精神看護学  
川下 貴士 助手



在宅看護学  
山口 智美 講師



松田 康広 教授



山家 敏彦 教授



大瀧 保明 准教授



在宅看護学  
花里 陽子 助教



公衆衛生看護学  
佐藤 美由紀 准教授



木浦 千夏子 准教授



渡邊 紳一 准教授



渡邊 晃広 助教

# 本学の学生サポート

学生が充実した学生生活を送るために、神奈川工科大学ではさまざまなサポートがあります。

## 学生課 学生生活を支え、明日へと導く

### <学生相談室>

大学時代は、勉強や研究をするだけではありません。友人との関わり、クラブ・サークル活動、アルバイトなど、社会に出ていく前の大切な練習期間です。それと同時に自分自身のことを見直したり、将来の事を考えたりなど、心が揺れ動く時期でもあります。学生の皆さんのそのような時期をサポートするために、「学生相談室」を設置しています。



#### ◆相談内容◆

人間関係、身体や気持ち、学業について、進路について

#### ◆開室時間・連絡先◆

月曜～土曜(9:00～17:00) \*受付は16:30まで  
電話:046-291-3038 Eメール:sodan@kait.jp (返信には数日かかる場合があります)

#### ◆カウンセラー◆

臨床心理士4名/メンタルヘルス・アドバイザー1名(精神保健指定医\*水曜日入室)

### <「奨学金」について>

経済的理由により修学困難になった学生に対しては、学資を貸与する「奨学金」があります。

#### ◆奨学金の種類◆

##### 「日本学生支援機構奨学金」

第1種(無利子)・第2種(有利子)の2種類があります。

第1種貸与額:自宅通学者54,000円、自宅外通学者64,000円、または3万円を選択

第2種貸与額:3万円、5万円、8万円、10万円、12万円の中から選択

\*春の採用については、終了しましたが追加募集がある場合は、学生課の掲示板でお知らせをしています。

##### 「幾徳学園奨学金」

貸与額:34,000円(募集人数30名\*1年生対象)採用決定は、6月～7月

出願者に対して、選考のための面接を行います。



### 父母説明会・個別相談(本学)の開催について

平成27年度父母説明会・個別相談(本学)は、次の日程で開催を予定しております。クラス担任との個別相談会の時間も設けております。尚、案内状の発送は8月上旬を予定しております。

【父母説明会・個別相談】9月26日(土) 神奈川工科大学

(同案内につきましては、本誌P.21にも掲載しています。)

### <健康管理室>

病気やケガの応急処置を行い、必要な場合には、専門の病院や近隣の診療所などの医療機関を紹介しています。その他、健康や医療に関することなどの相談を受け付けています。



#### ◆開室時間・連絡先◆

月曜～金曜(9:00～17:00) (9:00～11:40 / 12:30～17:00)

電話:046-291-3037 Eメール:kenkou@kait.jp

#### ◆看護師・学校医◆

看護師2名(交代制) / 医師 水曜日13:30～15:30に在室。

(学校医\*とうめい厚木クリニック)

### 崩れがちな栄養バランスも 安くて豊富な学食で安心です。

学内には、4つの学生食堂を設置しています。日替わり定食や、カレー、どんぶり、そばなどを嬉しい価格とボリュームで提供しています。朝から夜まで提供している食堂や女子学生に人気のカフェレストランなど何れも人気メニューを揃えて、学生の食生活を支えています。



#### POINT!

「生活の乱れは食生活の乱れから」朝食欠食の習慣化に注意しましょう。また、学生食堂ではカロリーとアレルギー表示も行っています。

### モバイル 「KAIT安否情報サイト」

このところ頻発している自然災害。「果たして家族は大丈夫だろうか?」。募る心配、不安……。にもかかわらず安否の確認には数日間を要しました。そこで神奈川工科大学では、もし大震災に見舞われても素早く・正確・確実に情報を伝える「KAIT安否情報サイト」を立ち上げました。事前登録をしておくだけで災害の発生後から1週間、指定時間に学生本人が登録した安否情報を保護者にメールで配信します。地震だけでなく台風などの自然災害にも対応しています。また、家族10人まで、学生・教職員の家族専用ページにアクセスして安否情報の登録・確認、メンバー情報の管理などが可能な「きずなサイト」も利用することができます。

#### POINT!

- ◆停電になっても大丈夫!災害発生時には、遠隔地にシステムを切替え
- ◆学生の安否情報を保護者へメールで送信
- ◆モバイル学生証だからこそできる!正確で頼れる緊急連絡ルートを利用

## キャリア就職課 満足度の高い就職活動の実現に向けて

希望の進路へ着実に進んでいけるよう、学生のキャリア形成をサポートするのがキャリア就職課です。キャリア就職課職員、キャリアアドバイザー、学科就職事務室は、日々就職に関する質問や相談に対応しています。

2015年3月卒業生の本学の就職率は96.0%、また進路決定率(卒業生全員に対する就職決定および進学決定)は91.0%でした。景気の改善も相まって、リーマン・ショック前の水準に回復しました。

現在、2016年春卒業生の就職活動が本格化しており、報道されている通り、昨年度よりも売り手市場になっています。採用日程が後倒しになっていることからの影響など、学生一人ひとりの相談に対応しながら就職支援を行っております。



### 29業界が参加。本学独自の「合同企業説明会」を開催

本学卒業生が活躍している企業を中心に、大手企業から中堅企業まで29業界が参加する「合同企業説明会」を開催しています。2014年度の説明会には、延べ1,222社の企業に参加いただきました。

「質」「量」とも充実した説明会で、結果として、昨年度は、全内定者の49.4%の学生が合同企業説明会参加企業に就職が決定しました。



## 教務課 授業・履修～学びのサポート～

人生において非常に貴重で濃密な時間、それは間違いなく大学の4年間です。高校までとは大きく異なり、「自学自習」=自分で時間割を組み立てて1週間のスケジュールをつくり、サークルやアルバイト、ボランティアや海外留学までもが自分の判断で取捨選択することができます。授業形態はまさにさまざま。高校時代のように先生の話聞く講義形式、自らが体験する実習・実験、さらには少人数で行うゼミナール(演習)という大学ならではの授業もあります。「学びたいことを思いきり学べる。」これが大学で学ぶことの何よりの魅力ではないでしょうか。ただし良いことづくめではありません。卒業に必要な単位数が124単位以上と決められていて2年次までに50単位未満、4年次までに104単位未満の場合は残念ながら留年が決まってしまう。そうならないために神奈川工科大学では「CAP制度」を設けて指導しています。これは履修単位の上限を設定するもので、各年次修得単位数の目標値を1年次40単位、2年次40単位、3年次30～40単位としています。これを順守することで予習・復習に必要な時間も十分に確保でき、冒頭に掲げた充実した4年間を送ることができるのです。



また、保護者の方に「保護者ポータルサイト」を開設し、学生の掲示板(連絡内容)・授業時間割・出席情報・出席率・試験日程情報を常に把握することができるようになり、学生・保護者・大学が三位一体で学修状況をリアルタイムで共有できるようになりました。(学生支援本部 平野多嘉弘教務担当部長)

### POINT 『合同企業説明会』の実績

「質」:参加企業、中身が充実している

卒業生が活躍している企業を中心に、大手企業から中堅企業まで29業界が参加。神奈川工科大学から採用したい、と意欲の高い企業に参加をいただいています。

「量」:全国有数の参加企業数 2014年度 1,222社(8月を除き毎月開催)

「結果」:全内定者からの決定率 2014年度 49.4%



「KAIT Career」就職・キャリア総合サイトでは、合同企業説明会参加企業について、希望する業種や職種、勤務地などから検索し、事前に調べることができます。

#### ■今後の開催予定■

- ・第5回合同企業説明会:7月6日(月)、7日(火)  
(\*上記案内につきましては、本誌P.21に詳細を掲載しています。)
- ・静岡県合同企業説明会:7月1日(水)

## 保護者の方へ 「ご家族にご理解いただきたいこと」

### <企業側の採用活動を早めに、常にチェックする>

採用活動変更に伴って学生とご家族にご理解いただきたいことは、企業側の採用活動の申し合わせが遅れても、学生は今まで通りの準備が必要だということ。ホームページに、企業側の採用スケジュールが記載されているので、企業の多様な動きに乗り遅れないよう、事前に、業界・企業研究を確実にし、自分が興味を持った企業を徹底的に調べ、それに沿った活動をしてほしいです。3年生は、インターンシップ情報が6月から就職情報ナビサイト等で公開されますので、具体的に企業研究を進めていくことをお勧めします。

### <満足のいく就職活動に欠かせない点>

就職活動で大切なのは、自分自身がその会社に入って何をやりたいかということです。「どこ」の企業に入るかという企業名ばかりを優先せず、「何を」やりたいのかで動いていただきたい。その点をしっかり自問自答して、企業を選定していきましょう。

### <親子のコミュニケーションはしっかりと>

親の考え方は、お子さんの就職活動がスタートする前に、きちんと伝えましょう。進路を決定するときに、親の社会人としてのアドバイスは欠かせません。就職活動時には、特に親子の意思疎通を心がけてください。そして、最終的な判断は本人に任せ、ご家族は後方支援に徹していただくことがベターだと思います。ご不明な点はキャリア就職課にご相談ください。学生には「誰かと必ず相談しながら就職活動をするように」と、お伝えいただきたいです。親子で就職活動モードに入り、満足のいく内定獲得ができるように願っています。

#### <お知らせ>

9月の父母説明会・個別相談において保護者向けの教務ガイダンスを行います。また、クラス担任が、成績相談、個別相談に対応する予定です。

## 新入生

# フレッシュャーズ・キャンプを実施

新入生が大学生活にスムーズに入っていけるように、オリエンテーションの最後に実施しているのがフレッシュャーズ・キャンプです。今年度は4月6日～7日に1泊2日で行いました。大学では授業科目を学生自身が選択して履修スケジュールを立てなければなりません。履修申請の仕方は非常に複雑になっており、オリエンテーションの限られた時間内の説明だけで理解することは難しくなっています。そういった履修申請の仕方や、その他の大学生活全般についての疑問に答え（よろず相談）、新しい仲間を早い段階で作

てもらふことを主な目的としています。機械工学科では、できるだけ細やかな指導ができるように、クラスごと4グループに分かれて実施しています。各グループには大学院や学部の先輩も同行しており、教員には聞きにくいような相談もできるように配慮しました。今年度は、科学技術施設や工場の見学、ハイキングなど行いながら茨城、神奈川、山梨の宿泊施設へと向かいました。  
(文責:機械工学科助手/高橋 肇)



調布航空宇宙センターやシャトレーゼ工場見学、履修相談などが行われました。

## ポルト大学での博士論文の審査と講演

ポルトガル最大の国立大学ポルト大学(学生数27,000名)がポルトにあります。その博士課程学生のモンテネグロ氏が、共同研究のため2年前本学に滞在しましたが、その学位論文が高速鉄道に関係していることから、田辺研究室で新幹線の研究を行っているということでその審査に招かれ、この3月にポルトに出張してきました。

欧米の学位論文は一般にJuryと呼ばれる裁判に似た制度で審査し、スペイン、英国、ポルトガル、日本の大学から高速鉄道に関係した計6名の教授がJury委員として招かれました。大学のJuryルームで、モンテネグロ氏が論文内容を発表の後、各委員が一人30分づつ口頭試問を行い、氏が答えます(ディフェンス)。傍聴席には家族や友人がつめかけ、ディフェンスをクリアし投票で合格となりました。欧米の学位論文における厳格な審査制度を体験することができました。

翌日はポルト大学の招請で同教授による、新幹線の高速走行のシミュレーションに関する講演が工学部講堂で行われました。ポルトガルでは高速鉄道建設計画があることから関心が高く、多くの質問がありました。講演の後、副学長よりお礼にと、ポルト大学工学部のマークの入ったスポーツシャツがプレゼントされました。

ポルトは大西洋に面し、川と高台のある歴史ある美しい港町です。大航海時代には、ここからたくさんの商船が日本に出発し、西洋の文化や技術を伝えました。その歴史から人々は親日的です。

ポルトはポルトワインでも有名で、何年も熟成させ度数も20度にもなるものがあります。ルビー色の美しく甘く香りの高い濃厚なポルトワインは、旅の疲れを癒してくれます。年数を経たポルトワインは、車ほどの値がつくものもあるそうです。

(文責:機械工学科教授/田辺 誠)



Juryルームで合格のモンテ氏とJury委員との記念撮影



有名なドン・ルイス1世橋、メトロと車の2階建て



ドウロ川のポルトワインを運ぶ船、ポルト市内

## 広大な関東平野の西の端に位置する厚木市—そして神奈川工科大学の立地

機械工学科 准教授 岩永 正裕

厚木市は広大な関東平野の西の端に位置し、丹沢山塊に接する街です。もう一つ厚木市には大きな特徴があります。東から相模川、中津川、小鮎川の3つの河川が合流する地点でもあります。

厚木の由来は「集め木」という説が有力です。3つの河川で運ばれてきた木材の集散地であったとのこと。現在、3つの河川の合流地点で、毎年8月始めに開催される「あゆ祭り」で、全国的に有名な花火大会が催されます。

神奈川工科大学は3つの河川が合流する手前の、中津川左岸の台地の上に位置します。中津川は昔の中津渓谷、現在の人造湖—宮ヶ瀬湖から流れ下る大河です。

### ～鳶尾山、八管山～

神奈川工科大学のすぐ北側に、標高300m足らずの鳶尾山、八管山があります。私はほぼ毎日健康への対策として、鳶尾山一周のサイクリングを自分に課しています。300m足らずの低い山々ですが、自然が深いのです。様々な動物が生息しています。たくさんの猿達、雉の家族、カワセミ、フクロウ、夏にはホタル。隣接する中津川が直接、間接的にこれらの動物たちを育てていると思われれます。

### 運動の勧め～私の趣味はサイクリング～

私は、マウンテンバイクのギアを最も低くして、頭の中を空っぽにして鳶尾山をこぎ登ります。すると不思議なことに、それまで解けなかった難問の糸口が、フツと浮かぶのです。若い学生諸君も、適度な運動を心掛けて頂きたいと思います。きっと机にしがみついても解けなかった問題が、いとも簡単に解ける経験をされると思います。

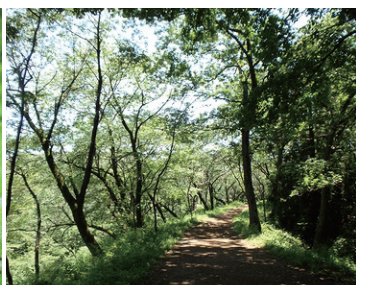
### ～圏央道の開通～

厚木市は山に接する街です。最近、圏央道が海辺まで開通しました。大学近くの圏央厚木インターから圏央道に乗れば、15分で海岸に着きます。相模川河口から江の島まで、砂浜の上に、舗装された素晴らしいサイクリングロードが繋がっています。先日大きな扇を体に結び付けて空に飛び上がろうとしている初老の男性を見かけました。「海に落ちないですか?」と問うと「海風(海から吹く風)でしか飛び上がれないので、海に落ちることはありません。でも防砂林を越えて幹線道路に着地した時には、生きた心地がしませんでした。」との回答でした。海にはサーフボードを抱えて大波を待っている人々が横一列に並んでいます。私は海を享受している人々を眺めながら、サイクリングを続けます。神奈川工科大学は山も海も堪能できる立地条件を備えることができました。

広大な関東平野の西の端に位置する厚木市で、山、海の大自然に接しながら、研究、教育に専念できる幸せを噛み締めています。



山中で見かけた「キジ」



鳶尾山の登山道



# 電気電子情報工学科

## 新学期へのスタートダッシュ! 「電気電子入門講座」

電気電子情報工学科では、毎年3月下旬に大学入学予定者を対象に「電気電子入門講座」を開講しています。本講座は、大学入学後スムーズに学習・学生生活が送れるよう2006年度より工業系出身者を対象にスタートし、2010年度からは入学予定者全員を対象に開講しました。これまで毎年受講満足度が90%以上得られている講座です。今年の参加者は、80名と入学予定者の約94%が受講し、本講座をスタートして最大の受講者数となりました。本講座は、工業系高校出身者、普通科高校出身者の2コース制で、出身学科によってコースが分かれています。各コースの内容は、工業系高校出身コースでは高校までの学習で不足している部分を「自然エネルギー」の実験を行いながら補強し、一方、普通科高校出身コースでは電気分野の動機付けとして電気の基本から電子回路工作まで幅広い内容を行っています。

本講座は受講時に友人づくりができるのも魅力で、他県出身者にとっては入学後の不安解消に大きな効果が得られています。受講後のアンケート結果でも、受講生の9割以上が友人ができたと回答しています。中には受講を通して4年間仲の良い友人として過ごした学生もいます。今年度入学してきてくださった皆さんに、この講座を通して今後の活躍を期待します。

(文責:電気電子情報工学科准教授/工藤 嗣友)



Aコースの様子



Bコースの様子

## 電気電子工学専攻の大学院生が日本マリンエンジニアリング学会から奨励賞と、ロイドレジスター奨励賞を受賞しました。

大学院電気電子工学専攻2年の佐久間義弘さん(瑞慶覧研究所所属)が、「熱交換器と電気集塵を用いたディーゼル排ガス中のSO<sub>2</sub>と粒子の除去」の論文で、「日本マリンエンジニアリング学会」の奨励賞を受賞しました。

奨励賞は、平成26年度発行の当学会誌に掲載された論文の著者で、40歳未満の個人が対象となります。更に、佐久間さんは、奨励賞を受賞した中から、特に優れているとして「ロイドレジスター奨励賞」も受賞しました。佐久間さんの研究は「船舶用ディーゼル機関から排出される排ガス中のSO<sub>2</sub>やPM等の有害物質を「熱交換器と電気集塵」を用いて、除去することを目的としています。

受賞に際し、佐久間さんは「同研究を4年次から始めて、実験当初は、理論通りに結果を得ることができなかったこともありましたが、実験を重ね、結果を出し、今回の奨励賞受賞につながりました。

今後は、SO<sub>2</sub>除去率の向上を目指して更に研究を進めてゆきます。」と話しています。

(文責:電気電子情報工学科教授/瑞慶覧 章朗)



佐久間さんの実験の様子

## 第3回電気電子情報工学科の全学年懇親会「縦コン」を開催

5月11日、電気電子情報工学科の全学年懇親会「縦コン」(1年生から大学院生までが参加する懇親会)が講義棟2階第一食堂で開催されました。新しいスタートを切った新入生も入学から一段落し、ようやく学生生活に慣れてくる一方で、緊張感も薄れてきてしまうこの時期に、本学科では例年行っています。

軽食と飲み物を用意して、教職員や関連企業の方々から頂いた賞品を全員で争奪するゲームを行い、大いに盛り上がりました。小宮学長からご提供いただいた図書券を勝ち取った学生は、有効に利用してくれたことと思います。なお、この懇親会の運営は、有志によるボランティア活動で行われています。来年はさらに盛り上がることでしょ。

(文責:電気電子情報工学科教授/小室 貴紀)



幹事の皆さん



## マイコン回路デザインコンテスト2015開催! ~アイデアを活かしてユニークな作品を作ろう!~

家電製品から自動車まで、マイコン技術を用いた電子回路がその心臓部となり、電子マイコン技術なくしては暮らせない時代となっています。さらに皆さんのアイデアを活用することで、こんなモノがあれば便利だ、楽しくなりそうだ! など身近なところに無限のものづくりの可能性が秘められています。本コンテストは、実際にマイコンを中心とする電子回路技術へのチャレンジを目的としています。

<ビギナーズ部門発表日>  
2015年9月13日(日)

<エキスパート部門発表日>  
2015年11月21日(土)

主催:神奈川工科大学  
OBJECT 実行委員会  
共催:神奈川工科大学  
電気電子情報工学科  
\*コンテストの詳細などはホームページをご覧ください。  
www.kait-ele.jp/micon/

神奈川工科大学  
神奈川工科大学 オブジェクト0 実行委員会  
〒243-0292 神奈川県横浜市中区新港1-10-20  
お問い合わせ: www.kait-ele.jp/micon/

神奈川工科大学はマイコン回路製作を通じて  
理科好き・ものづくり好きな人を増やしたいと考えています

マイコン回路製作を 無料  
始めませんか!

マイコン回路製作は、  
実際に始めるのが簡単です  
初心者でも安心できる  
マイコンキットをご用意  
マイコン回路製作の楽しさを体験  
マイコン回路製作の楽しさを体験  
マイコン回路製作の楽しさを体験

マイコン回路デザインコンテスト2015  
コンテストは2部門!

ビギナーズ部門  
9月13日(日)  
10時～12時  
13時～15時

エキスパート部門  
11月21日(土)  
10時～12時  
13時～15時

主催:神奈川工科大学 オブジェクト0 実行委員会  
コンテスト詳細はホームページをご覧ください。 www.kait-ele.jp/micon/

## 新入生の皆さん 入学おめでとうございます

応用化学科では今年度、68名の新生を迎えることとなりました。まだ新しい環境に慣れていない中、新生は、ガイダンスとしてプレイメントテスト、入学式、フレッシュャーズキャンプと授業が始まるまでに行うべきことが多くあり、4月1日から履修に関するガイダンスや、コース分けに用いられるテストなど様々なことを行ってきました。そして、その集大成ともいえるのがフレッシュャーズキャンプ(FC)です。今年度は修善寺までバスで移動し、ワイナリーヒルズでの一泊研修となりました。応用化学科には化学全般を学ぶ化学応用コースと、一つの専門を深く学ぶ総合化学エンジニアコースの2つのコースがあり、カリキュラムが異なります。そのため初日は、これらのコースの説明、それぞれのコースに適した1年次の時間割の作成を個々で行いました。これまでは、時間割は学校で決め



参加者集合写真

られていましたが、大学では自分で作成します。そのため、多少の不安や不慣れな面もあり、上級生に手伝ってもらいながら、全員、無事に完成させることが出来ました。翌日は、キャンプの醍醐味「アイスブレイク」を行いました。アイスブレイクでは、初めて出会う人が親しくなるために、身体を動かしたり、ゲームをするなどして、交流する機会を積極的に設けます。そのため、話をすることがない人とも話をする機会が多くなり、友達作りの役に立ちます。この「アイスブレイク」を通じて「大学に入ってはじめて話しをした!」という学生もいます。FCを通じて、少し緊張がほぐれたようです。帰りのバスは心地よい疲れで就寝する学生が多く、とても静かでした。これから4年間を一緒に学ぶ仲間たちと良いスタートが切れたのではないのでしょうか。4年間、一緒に頑張らしましょう。



ガイダンスの様子

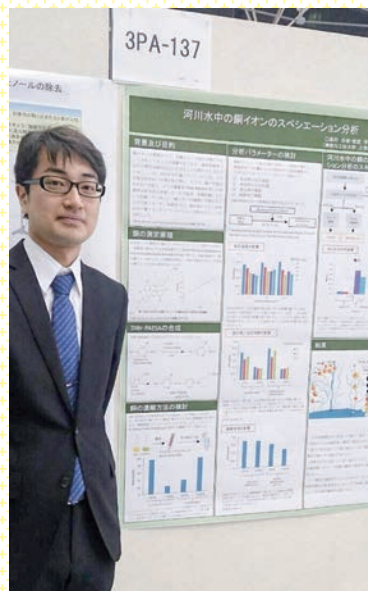


時間割の作成を行いました



アイスブレイクでの友人作り

## 卒業研究の成果発表



発表を行った徳武さん

応用化学科では、4年生の卒業研究が行われていますが、その成果発表は学内だけでなく、一部の学生は学外で開催される学会の発表を行っています。昨年度の3月には千葉県日本大学船橋キャンパスで「日本化学会」が開催され、多くの学生が発表を行いました。平成26年度の卒研生では、小林健太さん(農作物の種子の品種判別)、井上元貴さん(トリメチロールプロパンを用いたPETの解重合とアクリレート樹脂合成への応用)、八木澤 琢さん(グリセリンを用いたPETのゲミカルリサイクル)、徳武 学さん(河川水中の銅イオンの形態分析)、松下雄太さん(耐塩性植物の細胞培養とプロトプラスト化)らが卒業研究での1年間の成果を発表しました。また、現在、大学院応用化学バイオサイエンス専攻の修士課程2年生の杉山さゆりさんも「アズレンを有するイノンへのアミンの共役付加反応」の題目で発表を行いました。

## 平成26年度 成績優秀者賞の表彰

平成26年度の成績優秀者を表彰する、成績優秀者の発表が行われました。昨年度一年間で、成績が優秀な学生を表彰するもので、毎年、年度初めのガイダンスで表彰が行われます。昨年度の優秀者は、1年生は江口美穂さん、皆川 睦さん、2年生は佐藤俊樹さん、中村展基さん、3年生は山中岳寛さん、渡邊誉章さんが受賞しました。(平成26年度の学年)

3年連続で優秀者となった山中さんに喜びの声を頂きました。「3年間、努力してきた結果として、とても嬉しく思います。しかし、今、思い返してみると結果ばかりにこだわりすぎ、肝心の学問的な面については、むしろ深く追求してこなかったような気がします。2年生の前期に、今後の卒業研究や進路の事を考えはじめ、その時に、結果だけを重視した行動だけでは、いずれ行き詰まってしまうと感じるようになりました。それから自分のやりたい研究や学問のために、今の自分には何が必要で、そのためには何をすれば良いかと自問するようになりました。今では、学んでいることが本当に面白いと感じるようになったと同時に、考える力がついてきたと思っています。ただし、現状に満足せず、これからも自分の目標に向かって努力をしていこうと思います。」

先を見据えた行動が、良い結果を生んだようです。今後の活躍も期待しています。



2年生受賞者の佐藤さん(左)と中村さん(右)と、三枝学科長(中央)

## 応用化学科 優秀教員表彰

応用化学科では、毎年、学生アンケートや自己評価の結果を元にした、優秀教員表彰を行っています。平成26年度の優秀教員は斎藤 貴教授に決定しました。優秀教員による教育討論会も行われ、今後の教育体系について、私案がなされ活発な議論が行われました。



斎藤教授による講演

# 臨床工学科

## 臨床工学科一期生 フレッシュヤーズ・ガイダンスを開催

4月6日、7日の2日間、臨床工学科のフレッシュヤーズ・ガイダンスが開催されました。新入生(fresher)の入学時オリエンテーションの一環として、学科として行う初めてのイベントでした。44名の新入生を、心待ちにしていた教職員が温かく迎えました。

まずはじめに、ガイダンスに関する説明が行われ、その後は、教員紹介が行われました。教員9名のうち4名は新しく着任した教員なので、お互い期待を膨らませながら自己紹介に聞き入っていました。臨床工学科は2つのクラスに分かれており、それぞれの担任から学生生活に関するアドバイスを受けた後、キャンパスツアーが行われました。キャンパス内の施設を一巡りすることにより、講義やサークル活動、事務手続など学生生活がスムーズにスタートできるように説明が行われました。

1日目の昼食は、学生と教職員が一緒になったのバイキング形式でした。自分の好きな食べ物や飲み物を選び、初めて顔を合す人とも会話しながら、うち解けた雰囲気ですぐに食事を楽しまれました。

午後は、基礎教育支援センターと附属図書館の紹介があり、大学での勉強や研究活動について貴重な話を伺いました。その後、学科教務委員よりこれからの勉学(履修)の計画に関する説明、インターネットで履修登録する場合の注意などについて説明がありました。高校と違って、自分で科目を選択し申請することに驚いたり、とまどった学生もいたようです。

ガイダンスの2日目は、「マナー講習」から始まりました。命をあずかる技術者としての役割説明から、挨拶やメールの書き方まで幅広い説明があり、これから目指す臨床工学技士としての心構えができ

たようです。このあと「グループワーク・レクリエーション」があり、学生相談室の先生方のリードと大学院生のサポートで、いろいろなゲームをしながらお互い知り合い、親交を深めました。この頃から、お互いの壁が少しずつとれ、新入生同士の交流も活発になったようです。

午後は、パソコンの設定を行いました。無線LANの設定、履修登録作業の確認、メールのマナー講座などが行われました。その後、よろず相談会が開かれました。新入生諸君はこれからの勉学に向けて熱心に相談していました。この2日間の準備で、「明日の医療を担う人材」としての4年間のスタートが切られました。

このガイダンスにあたり、基礎教育支援センター、図書館、学生相談室の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

### バーベキューパーティーも開催しました

授業も始まり大学での生活にも慣れてきた4月28日、臨床工学科のバーベキューパーティーが第2食堂前の中庭で開催されました。クラス担任の教員と学生の有志が準備に取り組み、いろいろな食材が準備され、またほとんどの学生・教職員が参加し、盛大な会となりました。職員の家族も参加され、学生・教員と一緒に食べたり、遊んだりして大変和やかな雰囲気です。3時間以上楽しい時間を過ごすことができました。学生諸君は5月を乗り越えるエネルギーを蓄えたようです。

(文責・臨床工学科教授/松尾 崇)



ガイダンスの様子



昼食会の様子



キャンパスツアー



バーベキューの様子

## 「臨床工学技士」について 紹介します

臨床工学科 教授 山家 敏彦

臨床工学技士(CE: Clinical Engineer)は、1989年(平成元年)に医療国家資格として誕生しました。現在では、生命維持管理装置という名称を使用することは珍しくありませんが、このような装置名は、臨床工学技士の業務として、操作を許す装置をどう規定するかを議論して生まれたもので「人の呼吸、循環又は代謝の機能の一部を代替し、又は補助する、約6割以上の医療施設で臨床工学技士がその責務を担っています。呼吸機能に関する業務では、人工呼吸器の準備、操作、運転管理、吸引や排痰助、患者の呼吸訓練、治療に関する情報提供など、循環機能に関する業務としては、心臓カテーテル治療中のモニタリング、心機能評価、心臓手術における人工心肺操作、ペースメーカー外来など、血液浄化機能に関する業務では、人工透析装置の操作、治療量の評価、血管への穿刺、難病治療としての血漿交換療法装置の操作などがあります。

では、臨床現場での技士はどのようなことを業務として行っているのでしょうか。主な業務は、呼吸機能、循環機能、血液浄化機能に関わる業務と医療機器の保守点検・管理等の業務があります。改正医療法では、医療施設には医療機器安全管理責任者をおかなければならないとされており、約6割以上の医療施設で臨床工学技士がその責務を担っています。呼吸機能に関する業務では、人工呼吸器の準備、操作、運転管理、吸引や排痰助、患者の呼吸訓練、治療に関する情報提供など、循環機能に関する業務としては、心臓カテーテル治療中のモニタリング、心機能評価、心臓手術における人工心肺操作、ペースメーカー外来など、血液浄化機能に関する業務では、人工透析装置の操作、治療量の評価、血管への穿刺、難病治療としての血漿交換療法装置の操作などがあります。

このように、病院内のほぼ全ての部署、フィールドでの業務にあたっていますが、最近では、医療機器のみならず様々な医療器材の安全性や性能評価の依頼も増えつつあります。近い将来、「Device Information」の部署設置と担当職種として期待されるのではないかと考えます。



心臓手術時の人工心肺操作



人工透析患者さんへの穿刺

日本臨床工学技士会企画DVD「いのちのエンジニア」より

### 新任のご挨拶

臨床工学科 教授 山家 敏彦

4月より工学部臨床工学科に赴任しました山家敏彦と申します。1976年より主に大学病院、一般総合病院で末期腎臓病や難病に対する血液浄化療法に従事して参りました。1989年(平成元年)に最初の「臨床工学技士」が誕生したこの職種は、生命維持管理装置を用いた装置の操作と治療技術の提供や保守管理を主な生業とする、世界でも類を見ない国家医療資格です。第5次改正医療法では、「医療の安全と質の確保」を目的に「医療機器保守管理の義務化」が明示され、以来、医学的・工学的知識を修得した職種として大きな期待が寄せられています。

本学における私の役割は、これまでの臨床経験を余すことなく教育に提供し、「心・技」をもって患者に接することができる技士を養成することにあると考えます。臨床現場では、工学との融合により容易に解決するであろう問題が多く潜んでいます。病に伏す人々のために諸先生方のご指導を頂きながら教育と研究に取り組んで参りたいと考えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【専門】医療安全、血液浄化療法、臨床工学  
【担当授業科目】基礎医学実習、生体計測機器学実習、医用機器学概論、生体機能代行装置学Ⅱ(発展)関係法規、医用治療機器学実習、生体機能代行装置学実習Ⅰ(基礎)、生体機能代行装置学実習Ⅱ(発展)  
チーム医療論、臨床実習、臨床工学セミナー、卒業研究



臨床工学科 准教授 木浦 千夏子

4月より工学部臨床工学科に赴任致しました木浦千夏子と申します。これまで医療機関、臨床工学技士養成校などに勤務しておりました。臨床工学技士の立場から、如何に患者さんに安全で効率のよい医療提供ができるかを常に考えて従事しております。

ところで、皆さんは臨床工学技士をご存知ですか? 医療において、医師以外に直接治療に携わることができる医療職種です。ですので、業務内容はかなりシビアなものが要求されます。

最近、医療事故が多く取り沙汰されています。医療全体における安全管理体制についてどうあるべきかを考えていく必要があると思っています。これからも「医療安全」を常に念頭に置き、臨床工学技士育成に尽力する所存です。

【専門】臨床工学、医用安全管理、医療レギュラトリーサイエンス  
【担当授業科目】医用機器安全管理学、呼吸療法装置学、生体機能代行装置学Ⅰ(基礎)、生体物性工学、臨床工学セミナー、チーム医療論、基礎医学実習、生体計測機器学実習、医用治療機器学実習、生体機能代行装置学実習Ⅰ(基礎)、生体機能代行装置学実習Ⅱ(発展)、臨床実習、卒業研究



臨床工学科 助教 渡邊 晃広

4月から臨床工学科に着任いたしました渡邊晃広と申します。前職では10年間、「臨床工学技士」を養成する専門学校で学生の教育に力を注いできました。今日の医療は、医療技術の急速な高度化や治療内容の複雑化により、医師や看護師のみならず様々な職種のスタッフが適切に連携することで成立しています。

いわゆるチーム医療の中で、臨床工学技士は「医学」と「工学」の両面を兼ね備えた国家資格であり、現代医療に不可欠な医療機器のスペシャリストと言われております。工学的な側面から医師などにアプローチできる、自分で「考え」行動に移せる「創造力」を持った学生を育てることができるよう、学生の皆さんと一緒に努力していきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

【専門】超音波工学、臨床工学、医用生体工学  
【担当授業科目】基礎医学実習、生体計測機器学実習、医用治療機器学Ⅱ(発展)、体外循環装置学、医用機器安全管理学実習、医療治療機器学実習、生体機能代行装置学実習Ⅰ(基礎)、生体機能代行装置学実習Ⅱ(発展)、チーム医療論、臨床実習、臨床工学セミナー、卒業研究



# 自動車システム開発工学科

## 「自動車システム工学プロジェクトⅡ」

—自ら考え、答えを導き出す—

本学科2年次に開講されている「自動車システム工学プロジェクトⅡ」(次世代自動車開発特別専攻では「次世代自動車開発プロジェクトⅡ」)の授業について紹介します。これは、次世代自動車の開発を担う技術者のための基礎を講義・実験・演習を通して学ぶ体験型授業の一つです。仲間と協力しながら技術やもの考え方を修得していきます。今回は、その中の3つのテーマについて紹介します。

### テーマ 「空気抵抗とダウンフォース」

このテーマでは、自動車のボディまわりの空気流によってボディにどのような力がかかるのかを学びます。特に、空気抵抗とダウンフォースという2つの力に着目します。1週目は、エネルギー消費を少なくするためにどのようなボディ形状が良いのか、つまり空気抵抗の小さな形状について学びます。写真の「ドルフィンジャンプ」という競技を交えて学んでいきます。これは、発泡スチロールの角材を水の抵抗の小さな形状にカットして、水に沈めてから手を離してそのときの浮力を利用して高飛びをさせるという競技です。水の抵抗の小さな形は空気抵抗も小さく、いわゆる流線形と呼ばれるもので、その原理を学びます。水深30cmの水槽で、うまくカットすると高さ1m以上のバーを越すこともできます。2週目はダウンフォース(空気流によって発生する下向きの力)について学びます。発泡スチロールの角材と厚紙を使ってダウンフォースが大きな形状を作り上げ、その力の大きさを競い合います。そこで学ぶ原理はレーシングカーのウイングにも通じるもので、レースに勝つためには必要不可欠の技術です。

【参考】楽しい流れの実験教室  
[http://www.jsme-fed.org/experiment/2011\\_6/003.html](http://www.jsme-fed.org/experiment/2011_6/003.html)  
[http://www.jsme-fed.org/experiment/2012\\_12/002.html](http://www.jsme-fed.org/experiment/2012_12/002.html)  
 (文責:自動車システム開発工学科教授/石綿 良三)



ドルフィンジャンプの様子

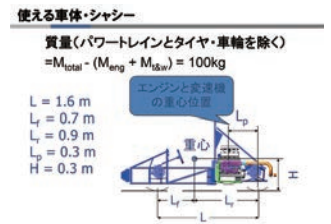
### テーマ 「パワートレインの基礎設計」

パワートレインとは、エンジンで発生する動力を効果的に地面へ伝える「エンジン・変速機・タイヤ」一連の装置類の総称であり、本プロジェクトでは「走る・曲がる・止まる」という車の基本機能の、特に早く走るために必要な知識習得や設計方法を学びます。

実践例題として、競技車両を想定し、停止状態から発進して100mまでの加速時間をできるだけ短くする、エンジン、タイヤ、ギヤ比を設定することを考えます。

鋭い加速をするためにはギヤ比を上げて…と考えがちですが、単純にトルクがあればよい、タイヤが太ければよい、ギヤ比が大きければよいという物ではなく試行計算を経て最適な解を求めるケースも発生するなど、案外そうでもないことを理論と実際の計算を通して学びます。この設計開発手法は、競技に勝てる車両を設計するうえで必須の知識となります。

(文責:自動車システム開発工学科教授/山門 誠/助教/小宮 聖司)



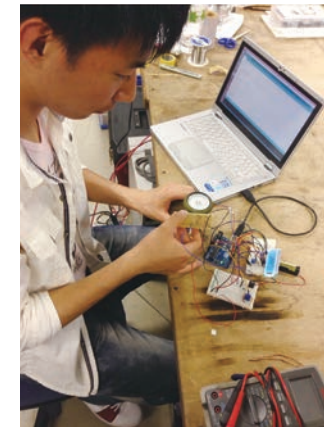
### テーマ 「マイコンを用いたDCモーターの制御と車速計測」

このテーマを2年次の前期に体験すると、自分の好きな速さで小さなモーターを回せるようになるでしょう。また、光を検出する部品を使って、ぐるぐる回るタイヤの速さを液晶に表示できるようになると思います。初めてさわる部品から、一人ひとりが電気回路を組んで、プログラミングや計測を体験することで、「やってみたらできた!」という達成感を味わえることを目的としています。

この授業で使うのは、アルドゥイーノというイタリア製のお洒落なマイコンです。情報メディア学科の平野教授から教えていただきました。最近はやり(?)のテクノ手芸で、文系の学生さんや女子学生さんにも愛好家が多いようです。今までのように一部のマニアだけが使いこなせるものから、いつでも、だれでも、どこでも手軽に何かを計測したり、光らせたり、回転させたり…そんな遊び心から皆さんのアイデアとやる気が伸びてくれたら素敵ですね。

3年次になって、プロジェクト授業で人に乗せて、走って・曲がって・止まることのできる移動体”を製作するときに、少しでも役に立つのではないかと考えています。

(文責:自動車システム開発工学科准教授/藤澤 徹/助教/佐々木 正孝)



## 超小型エコロジー指向電気自動車の設計・技術を競う「Pico-EV・エコチャレンジ2015」を開催

学生が設計・製作をした超小型電気自動車(Pico-EV)の競技会が、2月28日～3月1日に国立東京工業高等専門学校において開催されました。全9チーム約70名の参加者があり、本学からは2チームが参加しました。

### 超小型電気自動車競技会「pico-EV・エコチャレンジ2015」参戦報告

自動車システム開発工学科2年(\*学年:大会開催時)  
 池元 建斗/岩永 拓哉/平良 彬/林 飛鳥

毎年開催されている「Pico EV大会」に、2年連続で出場しました。これは、単3電池6本を使って走行距離を競う省エネルギーで電気自動車を走らせる大会です。車体の規定では、三輪以上の移動体となっていたので、子供用の自転車改造して、三輪走行、チェーン駆動にしました。この車体は組立が容易なので、車を使わずに電車で運ぶことが出来ました。大会の初日は、製作した車両の車検を行い、テスト走行を行いました。二日目には本戦が行われました。全国から参加チーム9チームが集まる大きな大会となり、結果は走行距離が2240.9mで4位でした。3位は2644.8mと僅差で、2位は2820.3m、1位は4614.5mと大きな差が出てしまいました。本戦の後、ポスターセッションによる各チームの車体発表があり、新しい発想のステアリング構造を見たり、竹とダンボール箱で出来た車体があったりと、様々な車体を見て知識を得ることが出来ました。この経験を活かして今後も活躍していきたいです。

車両の部材を自然回帰型かつ軽量・高剛性とするために、重包装輸出梱包用強化段ボールと竹繊維強化積層板からなるグリーンコンポジットハイブリッド(GCH)材料を新たに開発しました。部品点数の削減と分解組み立て作業の短縮及び移動を容易にするために、キャリアバッグの状態から一人乗りEVへの形態可変構造を考案しました。その結果、一人で4工程を僅か5分で組立完了を実現し、さらにGCH材料とした事により、車体構造は竹材のみの場合と比較して21%軽量化して4.2kgであってEVの総重量は5.6kgとなり、高齢者利用の見通しを得ました。

競技大会は安全ミーティングの後に、静的及び動的車検、試走、本戦、ポスターセッション、表彰式、後片付けで構成されています。本戦では、残念ながら学内試走時の距離には及ばず655mであったものの充電式単三乾電池6本で30分間を完走して、栄えある「ベストデザイン賞」を受賞しました。走行後の車体の破損はなく、強度の点でも実用の見通しを得ました。

今回開発した「グリーンコンポジットハイブリッド材料を用いたpico-EV」は、卒業研究の大きな成果と考えます。卒業生の努力と創意に敬意を表すると共に、応援して下さい皆様方にも厚く御礼申し上げます。

(文責:自動車システム開発工学科教授/宇田 和史)



大会参加者集合写真



Townkids corporation Team Green Composite  
 ポスターセッションにおける発表

# ロボット・メカトロニクス学科

## 平成26年度 プロジェクト研究報告会を実施

4月7日に、平成26年度後期プロジェクト研究報告会を実施しました。今回は、1年生にプロジェクト研究の取り組みを知ってもらうために、フレッシュヤーズガイダンスの中に報告会を組み込み、1年生の前で発表するという新しい試みを行いました。

4年生の発表が1件(1チーム12名)、2年生の発表が4件(4チーム8名)計5件の発表がありました。

すべてKORP(神奈川工科大学オリジナルロボット製作プロジェクト)のメンバーで、プロジェクト研究とともに、KORPの取り組みも宣伝するような形になりました。

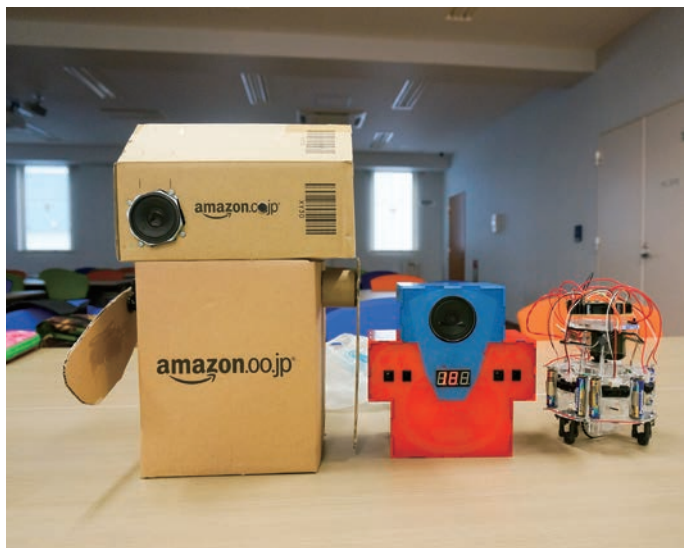
4年生は2年生の前期から取り組んでいる「クモ型ロボット」の研究発表を行いました。

ハードが完成し、電子回路とプログラムを組み込むところで一部不具合があり動かすことが叶いませんでしたが、その問題点を探り、どのような解決策が考えられるかを発表し、2年生は、1年かけて製作した小型のオリジナルロボットを発表しました。

ロボットの作り方を知らないところから始めたメンバーでしたが、1年間で多くのことを学び、充実感が得られたと発表がありました。

これらのロボットはオープンキャンパスなどで公開していきたいと思えます。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科准教授/吉留 忠史)



2年生:小型オリジナルロボット



4年生:クモ型ロボット

## 大学院生がライフサポート学会奨励賞を受賞!

大学院ロボット・メカトロニクスシステム専攻の桑江ルッカス哲也さん(2014年度修了)が、ライフサポート学会奨励賞を受賞しました。ライフサポート学会では、全国の国公私立大学卒業予定者・大学院修了者および高等専門学校の専攻科修了予定者のうち、人格、学業ともに最優秀で、卒業研究および修士・博士課程における研究において、生命・生活支援技術の発展に積極的に取り組んだ学生を対象とした奨励賞を設けています。桑江さんは、修士論文研究として「レーザーレンジセンサを用いた人追従システムの研究」に取り組み、その研究成果が評価されました。この研究の目的は、レーザーレンジセンサを使用して人の認識および追従システムを開発することです。このようなシステムは、高齢者のための荷運び手伝いロボット、子供の見守りロボット、防犯ロボットなどへの応用が考えられます。本システムは、人の動きに追従するだけでなく、動いている障害物を避けることもでき、実際の動作実験により有効性が確認されました。また、桑江さんは本研究の成果を3月5日に行われた第24回ライフサポート学会フロンティア講演会で発表し、本賞の授賞式もその会場で行われました。桑江さんは、4月より大手工作機械メーカ

の技術者として第一歩を踏み出しましたが、大学院での研究経験を活かして、今後活躍されることを期待しています。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科教授/河原崎 徳之)



授賞式の様子と受賞した桑江さん

### ロボット・メカトロニクス学科移籍のあいさつ

はじめまして。今年度から本学科で教鞭をとることになりました森 勇輔です。どうぞよろしくお願いいたします。私の専門は自動車をはじめ身の回りにある機械や装置を主に対象とする工業デザインです。デザインというとかっこいい形や色などを創作するというイメージが思い浮かべられると思います。もちろんそれも大変重要なことですが、何よりも大切なことは機能と安全性です。どんなに美しい形であっても使いにくかったり誤操作を招いたり、複雑な使い方を強いられるものであっては意味がありません。それどころか不安全で危険なものになってしまいます。ロボットは日常生活を支援する道具として身近な道具や家電品と同じように存在そのものが当たり前になる時代がすぐそこまで来ています。そのためには中身が複雑で高度な機械の塊であるロボットを親しみのある有為なパートナーにするためにもデザインの意味は大き

### ロボット・メカトロニクス学科 教授 森 勇輔

いと思います。人間の心地よい生活環境を向上するためには何が求められどのような配慮と工夫が必要かを見極めたうえで、技術的解決に向かうのがものづくりの基本です。そのためには世の中の動向やニーズをつかむ市場調査やコンセプト設計も重要なステップになります。30年近くに渡り商品開発の現場で商品企画やデザインをしてきました。その経験やノウハウを是非ものづくり教育に反映したいと思っています。いろいろな道具や機械の創造をデザインの視点で一緒に考えて行きましょう。



# ホームエレクトロニクス開発学科

## 第77回情報処理学会全国大会で 2件の学生奨励賞を受賞

3月17日から19日まで京都大学で行われた第77回情報処理学会全国大会に、大学院電気電子工学専攻一色研究室の横山さん、ホームエレクトロニクス開発学科から森・杉村研究室の有馬さん、波多野さん、手平さん、金子さんの5名が参加しました。情報系では、非常に大きな大会で合計約1,400件、そのうち神奈川工科大学からは、19件の発表があったようです。

大会では、学生会員を対象にセッションごとに分かれて学生奨励賞というものがあります。今回は合計で213件の発表が選ばれたようで、ホームエレクトロニクス開発学科では一色研究室の横山さんと森・杉村研究室の手平さんの2件が学生奨励賞をいただきました。また、手平さんと同じセッションにいた情報工学科清原研究室の蘇原さんも学生奨励賞をいただきました。

学会発表後は、京都を歩きながら歴史を感じ、美味しいものをいただき、全員無事に帰路につきました。

<発表タイトル>

- 波多野 匠 「パッシブを利用した自然光制御装置の開発」
- 有馬 一貴 「HEMS継続利用のための節電支援ツールの開発」
- 手平 裕希 「聴覚障がい者のための音声認識システムの音声ピッチ調整方法」
- 金子 将之 「快適な目覚めをサポートする家電製品連携システムの開発」
- 横山 悠平 「ECHONET Liteを用いたHEMSサービス開発環境の構築」

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科助教/杉村 博)



## 科学技術館開館50周年記念 2015年春休み特別展 「ニッポンの産業技術50年 しゅくとくふうと、まなぶ展」で特別イベント『家電(液晶テレビ、電子レンジ、洗濯機)の解体ショー』を開催

神奈川工科大学創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科として、表題のイベントに参加しました。天候は雨にも関わらず、両日共に多くの来場者の方が来場されて、家電の解体ショーを行うことができました。



子どもたちにもわかりやすく説明を行う三橋准教授

4月4日(担当:三橋)

は、動作できるまで解体された状態の液晶テレビを用いて、偏光技術や液晶バックライトの変遷について説明をしました。液晶バックライトとして用いられていた、冷陰極蛍光ランプをプラズマボールに近づけると来客からは歓声が上がっていました。

4月5日(担当:金井教授)は、電子レンジの完全解体、洗濯機の解体が行われました。古い洗濯機の洗濯槽を回転させる機構とダイレクトドライブ方式との洗濯機の違いなどを説明。両日共に親子連れが多く、特に親御さんが興味を持って教員に質問する様子が多く感じられました。親子で家電製品について語り合い、また不明点を教員に質問するなどして、理科や科学技術に興味を持って頂きたいと思いました。このような機会を増やすことにより、親子で「理系好き」の子どもが増え、理系離れに歯止めをかけられればと祈念しております。

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科准教授/三橋 貴行)

<詳細の紹介>

神奈川工科大学ホームエレクトロニクス開発学科 Facebookページ

## 海外創造工学研修(シンガポール)

2月24日から3月までの10日間、シンガポールにおいて「海外創造工学研修」を実施しました。参加学生は、ホームエレクトロニクス開発学科より21名、ロボット・メカトロニクス学科2名、電気電子情報工学科1名、機械工学専攻1名の参加がありました。研修の柱は、シンガポール国立大学で次世代ロボットや、インテリジェントカーなどの研究を進める、スマート研究センターにて、電子回路、マイコン制御に関する講義と実習です。講義と演習は、シンガポール国立大学のマルセロ教授により、英語で実施され、学生は日本での学習内容を基礎として、より専門的な学習に真剣に取り組みました。初日は、大学教員等とのコミュニケーションに高い壁がある印象でしたが、徐々に親しんだ雰囲気での学習が展開され、参加した学生各自が、成果のある授業となりました。

シンガポール国立大学での専門授業だけではなく、グループでの「テーマ別市内視察」なども実施し、生活の中での英語によるコミュニケーション、日本との文化の違いなど肌身で感じる体験を行うことができました。参加した学生の中には、次はものづくり系の世界コンテストに参加したい等、海外での学習展開を希望する声があり、多くの学生に、海外での経験を積んでもらいたいと思いました。

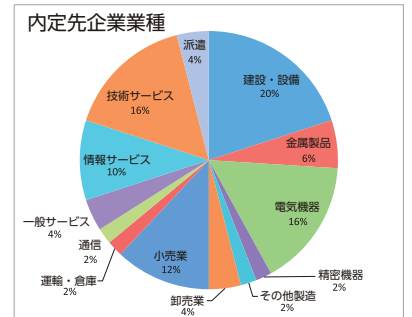
(文責:ホームエレクトロニクス開発学科教授/金井 徳義)



## ホームエレクトロニクス開発学科 就職内定率、2年連続100%を達成!!

平成26年度卒業生の就職内定率は平成27年2月中旬の時点で100%に到達しました。本学科は、平成25年度に続き、2年連続の就職内定率100%となりました。これは学生の就職活動に対して、卒業研究指導教員が積極的に支援を行ったことだけでなく、企業連携プロジェクトなどの社会人基礎力を身につける講座が多いことが挙げられると思います。企業と直接交流を持つ「企業連携プロジェクト」の場合は、社会人

平成26年度卒業生の内定先企業業種別割合



の方と接する機会が増え、面接時に明確な受け答えが出来ていると感じています。実際に学生から、そのような話を聞く機会があり、本学科が行っている授業が内定率向上に寄与していると考えられます。また採用試験の最終面接で、「企業連携プロジェクト」の報告書を使用し、内定を獲得した学生も少なくありません。今年度も有意義なプロジェクト授業を実施し、引き続き3年、さらに4年連続の就職内定率100%を目指して学生支援を進めていきます。

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科准教授/三橋 貴行・就職委員)

### 内定先企業情報

- 建設・設備/JESCOホールディングス(株)(東京都)、(株)カナメ(神奈川県)、扶桑電機(株)(神奈川県)、東光電気工事(株)(東京都)、(株)サンテック(東京都)、サンワコムシステムエンジニアリング(株)(東京都)、(株)雄雄電社(東京都)、(株)カドー(東京都)(東京ガス系列)、(株)ワールドエンジニアリング(静岡県)、日本電技(株)(東京都) ●金属製品/稲垣商事(株)(千葉県)、(株)ガスター(神奈川県)、(株)須藤製作所(神奈川県) ●電気機器/(株)東芝(東京都)、(株)未来技術研究所(愛知県)、(株)ティエスイー(神奈川県)、新日本電子(株)(東京都)、ホーチキ(株)(東京都)、パナソニックエレクトロニクステクノサービス(株)(大阪府)(パナソニック系列)、(株)五十嵐電機製作所(神奈川県)、内山電機工業(株)(東京都) ●精密機器/林時計工業(株)(東京都) ●その他製造/(株)ニチベイ(東京都) ●卸売業/東京ガスエコマ(株)(神奈川県)(東京ガス系列)、東京ガス横浜中央エネルギー(株)(神奈川県)(東京ガス系列) ●小売業/(株)ノジマ(神奈川県)、(株)梅田モーターズ(神奈川県)、(株)あさひ(大阪府)、(株)ビックカメラ(東京都) ●運輸・倉庫/(株)ソクハイ(東京都) ●電力・ガス/東京電力(株) ●一般サービス/(株)アクセス(神奈川県)、モバージュル(株)(東京都) ●情報サービス/(株)アローズ・システムズ(神奈川県)、(株)テクノ・IT社(東京都)、(株)セラク(東京都)、(株)ブル・ジャパン(東京都)、(株)日本テクノ開発(東京都)、(株)ジー・アイ・ビー(神奈川県) ●技術サービス/イオンテック(株)(大阪府)、(株)ハーテック・ミフ(兵庫県)、セントラルエンジニアリング(株)(東京都)、(株)コスモ設計(北海道)、東芝電機サービス(株)(東京都)、(株)エム・メンテナンス(株)(東京都)、(株)東海ビルメンテナンス(神奈川県) ●派遣業/ゼネラルエンジニアリング(株)(東京都)、(株)マイスターエンジニアリング(東京都)

## 新しいバイオフィアミリー(10期生)を迎えて

### 新入生、フレッシューズキャンプへ

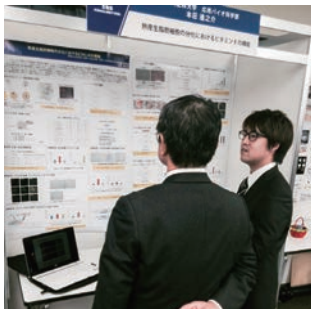
135名の新入生を迎えて、4月6日・7日に、フレッシューズキャンプが行われました。初日は、まず横浜のキリンピアビレッジの工場見学をして、ビール製造工程をじっくり説明してもらいました。見学後はドリンクを飲みながら、新入生同志、緊張気味にもコミュニケーションがとれているようでした。南九十九里のホテルに到着後は、全体会、夕食、クラス会と慌ただしい時間を過ごし、各部屋でさらに親睦を深めました。二日目は、あいにくの悪天候のため、葛西臨海水族館の見学へと急遽変更し、マグロやペンギンの姿を眺めながら、仲間だけでなく教職員とも交流を深めることができました。

### 縦コン2015&キャンパスツアーを開催

本学科では、新入生歓迎と「縦」の交流を目的として、学部1～4年生・大学院生・教員が一堂に会する「縦コン」を毎年4月に開催しています。今年度は、4月9日に開かれ、400名近くの学生が第一食堂に集まり、親睦を深めました。縦コンの準備・企画は例年2年生が行います。本年度は苗代雅広さん、園田航平さんが中心となり、学年混合のグループ対抗で連想ゲームを行い、縦のつながりを築くことができました。更に、毎年恒例となっている新入生のキャンパスツアーを、4年生の政木貴樹さん、中山友佳理さんが中心となって行いました。目的の場所へ各グループで行ってスタンプをもらうラリー形式で、ゴールは第一食堂です。これから利用する様々な場所へ地図を片手に効率よく回って勝敗が決まります。ポイントごとに先輩がいて、説明を受けたり、クイズに正答してボーナスポイントをもらったり、主催の4年生たちが工夫を凝らしてツアーを運営しました。ゴール後は、簡単なクラス会を行い、ツアーで優秀なチームには景品も出ました。1年生の皆さん、これから一緒に大学生活を楽しんでいきましょう。

## 「第4回 サイエンス・インカレ」で ポスター発表を行いました

2月28日、神戸国際会議場で開催された「第4回 サイエンス・インカレ」で、本荘進之介さん(平成26年度卒業生)がポスター発表を行いました。サイエンス・インカレは文部科学省が主催する学部生向けの研究発表会で、今年度は書類審査を通過した172組が研究発表を行い、課題設定・探求能力やプレゼンテーション能力を競いました。残念ながら本荘さんは、受賞に届きませんでした。企業の方や他大学の先生にも堂々と研究成果を発表していました。



## バイオ技術者認定試験に170名が合格!

平成26年12月21日に、中級および上級バイオ技術者認定試験が本学会場で行われ、応用バイオ科学科の学生が数多く受験しました。中級試験では126名(合格率78.8%)、上級試験では44名(合格率58.7%)、合わせて170名が合格しました。また、中級試験において菅原啓亮さん(受験時:2年生)が全国1位となり、日本バイオ技術教育学会から優秀賞として賞状と記念品が授与されました。

## 米国でも台湾でも 「海外バイオ研修」が受けられます!

語学(英語または中国語)とバイオ実験を海外で体験できる1ヶ月留学プログラム(春期休暇期間)が、米国のサウスシアトルカレッジと台湾の明道大学で行われました。台湾には、菅原安里菜さん、石塚大登さん、鈴木鉄也さん、勝浦宗一郎さんの4名が、シアトルには、齋藤 泉さん、小田部恵美さん、坂本諭加さん、吉田智彦さんの4名が参加しました。このプログラムを通して異文化理解の大切さを肌で感じた学生たちは、帰国後の発表会において自身の体験を熱く語っていました。



シアトルでの研修参加者の様子

## 平成26年度成績優秀者表彰

新学期ガイダンスに合わせて、平成26年度成績優秀者の表彰が行われ、以下の学生に表彰状と記念品が授与されました。また、今年度から「菊地幹夫賞」も贈られました。  
新4年生: 笠松知恵美さん、前田翔大さん、倉橋怜亜さん  
新3年生: 菅原啓亮さん、吉田智彦さん、高橋淳間さん、谷村幸奈さん  
新2年生: 山本洋介さん、佐藤かおりさん、仲田南美さん

### 新任のご挨拶

応用バイオ科学科 助教 小澤 秀夫

4月より応用バイオ科学科に着任した小澤秀夫と申します。これまで、魚介類のタンパク質を中心に研究を行ってまいりました。今後は、タンパク質だけでなく、水産物を対象とした低アレルゲン化の検討や低アレルゲン化による食感や味の変化を中心に研究を行いたいと考えております。講義や実験では、分子や原子レベルから生物や食品を理解できるような教育を行いたいと考えております。また卒業研究では、英語論文の読解や研究の背景の理解ができるよう指導したいと考えております。



【専門】水産化学 【担当授業科目】生物機能化学

応用バイオ科学科 助教 和田 理征

4月より応用バイオ科学科に赴任しました和田理征と申します。3月まで本学の工学教育研究開発機構で、応用バイオ科学科のみならず、他学科の学生にも物理や化学実験を教えています。応用バイオ科学科の学生にとって物理や化学は苦手な科目ですが、様々な現象は物理や化学でほとんどが説明できます。生物・化学・物理と分けて教えるのではなく、生物は化学や物理と関係が深いと理解させるような教育や、様々な問題に対して論理的に説明できる学生を育てたいと思っています。

私の研究テーマは環境化学です。近年、海洋投棄されたプラスチックが問題となっています。PETボトルに代表されるように、プラスチックは私たちの生活に身近に必要なものとなっていますが、海洋投棄されると、小片になり野鳥や魚類が餌と間違えて食べることが問題となっています。プラスチックは分解しにくい物ですが、どのようにして小片化し、野鳥や魚類が食べた場合の影響を調べる、いわゆる環境評価が専門です。



【専門】環境化学、水環境、環境評価、機能性材料、新素材  
【担当授業科目】情報リテラシー、化学・生物学基礎ユニットプログラム、分析化学、バイオ機器分析ユニットプログラム

# 栄養生命科学科

## 新入生入学おめでとうございます。 ～フレッシューズキャンプを開催～

今年のフレッシューズキャンプは、入学式が終了した次の週に館山の「夕日海岸ホテル」を会場に泊まりがけで行われました。ホテル到着後、学科長の挨拶に始まり、教員、学生支援センターの先生方、そして新入生の皆さんの自己紹介がありました。新入生の皆さんは、自分の番までは緊張の時間だったでしょうが、お互いを知る機会でもあったと思います。夕食を挟んで、先輩たちとの交流の場が設けられました。これからの学生生活について先輩たちの経験を知る機会になってくれたらと思います。フレッシューズキャンプは、入学式前のガイダンス等では経験できない親交の機会です。同じ時間を過ごした2日間で得たことを、これからの学生生活に役立たせてください。



自己紹介の様子

## 管理栄養士として必要な知識・技術を修得する 「臨地実習Ⅳ」報告会を実施

3月27日に、「2014年度 臨地実習Ⅳ」報告会が、情報学部棟のメディアホールで開催されました。4期生の学生が、事業所や学校給食センター、セントラルキッチンで、給食の運営について学んだことを報告しました。各実習施設で、学内実習ではできない経験をした学生たちは、報告会で一回り成長した姿を見せてくれました。また、他の施設の報告を聞くことで、学びを共有できたと思います。今回参加した下級生は、先輩たちの報告を聞き、臨地実習のイメージ作りが出来たことと思います。後輩たちにとっても、有意義な報告会となりました。



### 第2期生のみなさん

## 管理栄養士国家試験の 合格率100%達成 おめでとうございます!

3月22日、第29回管理栄養士国家試験が実施されました。昨年に引き続き卒業式翌日となりましたが、第2期生の60名が試験に臨みました。5月8日に合格発表があり、60名全員が合格しました。神奈川県内の管理栄養士養成施設で唯一の合格率100%となりました。今年も管理栄養士養成課程(新卒)の合格率95.4%を上回り、2年連続で非常に高い合格率となりました。2期生の皆さん、4年間本当にお疲れ様でした。管理栄養士としての今後の活躍を心から祈っています。サポートして下さった先生方、職員の皆様、本当にありがとうございました。3期生も先輩方に負けないよう頑張りましょう!

<神奈川工科大学 管理栄養士国家試験の合格状況>

2014年 1期生 92.5%/2015年 2期生 100%

### 栄養生命科学科第2期生

## 卒業記念パーティー

3月23日、厚木アーバンホテルにて、栄養生命科学科第2期生の卒業記念パーティーが盛大に行われました。これは大学側の主催ではなく、4年間お世話になった方々への感謝の会として学生主体で運営しました。本学科の学生達は卒業式の翌日の3月22日が、第29回管理栄養士国家試験であったため、卒業式後の大学主催の卒業を祝う会には参加できず、各自試験に備えました。パーティーでは、これまでの緊張も解け安堵するとともに、予備校から発表された解答案の自己採点から合格の手応えを感じている学生も多く、華やいだ会となりました。ご列席いただいた本学の高橋肇頭理事、小宮学長や岡部学部長から、4年間のねぎらいと、はなむけの言葉を頂戴し、学生達は将来への希望を胸に会を終りました。



### 新任のご挨拶

#### 栄養生命科学科 助手 永瀬 摩奈

4月より栄養生命科学科に赴任いたしました永瀬摩奈と申します。2013年に管理栄養士の資格を取得し、2015年3月に大学院を修了いたしました。大学院では、三大栄養素である脂質の中でも必須脂肪酸に関するテーマで研究を続けてきました。そこで私は色々な条件で実験動物を飼育し、それらから得られた試料を用いて成分分析や定量など、様々な実験を行ってきました。大学院までの経験が活かせる場面ばかりではないと思いますが、学生のために精一杯、尽力させていただきたいと思っております。若輩者ではありますが、どうぞよろしくお願いたします。





# 情報工学科

## 新入生 オリエンテーション&フレッシューズ・ガイダンス

4月6日、本年度のフレッシューズ・ガイダンス(以下、FG)が開催されました。新入生総数は181名に達し、学内最大の講堂が会場です。FGの主な目的は「情報工学科教職員との親交を深める」とこと、「新入生同士で仲良くなる」ことです。とはいいつつも、すでに1週間前から各種ガイダンスや入学式などの行事があったため、早朝の集合時間にはすでにグループが出来上がりつつあるよう見受けられました。ここで一生涯の友人が見つかるのと良いです。

オリエンテーションでは、ビンゴ大会などの後、学科長講話や、就職・進学の話など、大学生活が充実したものになるようにとの思いが込められたプレゼンテーションが続き、先輩たちによるソフトウェア工房プロジェクトの紹介など経て午前中は終了しました。

午後からは少人数(20班)に分かれ、クラスアドバイザーの教員と昼食をとりながら自己紹介などを行い、それぞれのグループでより親交を深められたのではないのでしょうか。そのあとは履修計画のアドバイスや研究室の見学、学内の見学などを行い、最後にクラス単位(1組~4組:約45名)で、もういちど集合して、クラス担任の教員から今後の注意事項などが伝えられて解散となり、2日後から最初の授業がスタートしました。4年後の卒業を目指し、二度とない青春の日々を後悔無きよう、送って欲しいと切に願います。

(文責:情報工学科助教/須藤 康裕)



## リコーチャレンジ賞を受賞

RICOH & Java Developer Challenge Plusは、リコーの複合機(以下、コピー機)上で動くビジネスアプリケーションを作成する大会です。最近では、コピー機以外を利用することもできるようになりました。この大会は、4月から9月の間に、エミュレータ上でプログラミングします。そして決勝進出が決まると、12月に日本科学未来館で行われる決勝大会で、実際のコピー機を使ってデモンストレーションできるよう、実機上でのプログラミングをする大会です。

この大会は、2008年から毎年開かれており、本学では2009年から連続で応募しています。今年はプレゼンテーションツールReadMindを作成し、3年連続4度目の決勝進出を果たしました。

そして、決勝大会で、リコーチャレンジ賞を受賞しました。

受賞メンバーは、学生の自由な活動を支援する情報工学科のソフトウェア工房で活躍している以下の学生です。(※他学科にも門戸を開いております)。

- 中澤 舜さん 情報工学科4年(長野工業高校出身)
  - 渡辺 優太さん 情報工学科2年(郡山北工業高校出身)
  - 栗原 準さん 情報工学科2年(横須賀学院高校出身)
  - 板垣 卓さん 情報ネットワーク・コミュニケーション学科2年(郡山北工業高校出身)
- (文責:情報工学科教授/五百蔵 重典)



決勝大会でのプレゼン

表彰の様子

## 学生の学会発表

3月は大部分の学生たちにとっては春休みになりますが、研究活動を頑張ってきた教員や一部の学生にとっては研究成果を発表するシーズンでもあります。本学科からも多数の関係者が学会に参加し発表します。この時期に参加する主な学会は次の2つです。1つは電子情報通信学会総合大会で、もう1つは情報処理学会全国大会です。これらの学会は、情報科学の様々な分野の研究者が一堂に会するとても大きな学会です。普段、目につかない他分野の最先端の研究内容に触れることができるので、教員にとっても有意義な学会です。学生たちはこの場で修士論文や卒業論文の研究内容を学外に発表します。4年生の多くは初めて学外発表をするため緊張感でいっぱいですが、全く動じない学生も、ちらほら見受けられます。(本人たちは緊張していたようですが...)また、卒業旅行と時期が重なるので、学会と卒業旅行を兼ねる学生もいるようです。生まれ育った場所とは違う土地文化に触れられることも大切なので、出張を通して最先端の研究内容だけでなくいろいろなことを学びとってもらいたいと考えています。

電子情報通信学会2015年総合大会が、3月10日から13日の日程で、京都大学吉田キャンパスにて開催され、本学科から学部4年生と大学院生合わせて22件の発表が行われました。以下、発表者(平成26年度の4年生のみ)とタイトルを記します。

- 金田一将 音を用いた屋内測位システムの使用音源に関する基本検討
- 打越澂章 フルハードウェアシステムのためのTCP/IPスタック回路の開発
- 半澤悠太 小規模運行向けのパスロケーションシステムの開発
- 渡邊良太 四輪独立駆動車の動輪制御に関する研究
- 赤木信也 英文の読みやすさ指標の拡張による日本語文の読みやすさ推定
- 前川龍介 Webによる顔認証システムの実装と評価
- 柴田紘俊 電動車いす自動走行のための建物構造を利用した推定位置補正方法
- 大野寛直 圧縮に伴う歪みが生じた画像の拡大に関する検討
- 河合博之 個人認証機能を備えた音声認識システムの基礎的検討
- 大木島正徳 タイムラプス動画を用いた野菜のおしれを検知するアルゴリズムの検討
- 柴田太郎 組み込みCPUを用いたECHONET Lite対応家電制御機器の開発
- 五十嵐現生 TCP/IP通信を用いた組み込みシステムのフルハードウェア実装
- 濱田渉 ゼロ交差率を用いた楽曲検索システムの構築

情報処理学会第77回全国大会は、3月17日から19日の日程で、京都大学吉田キャンパスで開催され、本学科から学部4年生と大学院生合わせて8件の発表が行われました。以下、発表者(平成26年度の4年生のみ)とタイトルを記します。

- 今井亮介 投資家の嗜好を考慮した関連銘柄表示システムの開発
- 青山徹 酒田野線予測精度検証システムの開発
- 蘇原碩威 オンライン授業資料共有のための携帯端末間認証方式(学生奨励賞受賞!!)
- 小松淳 利用者の入力単語予測のための単語共起頻度データベース選択方式
- 齊藤絵美 ピアノを習う子供の継続力向上のためのアクティビティを重視した評価支援システムの検討
- 朝賀貴裕 携帯端末向けオンラインノートシステム-KFree-

(文責:情報工学科准教授/八木 勲)

## 筑波宇宙センター見学ツアー

IT(情報技術)は、今やいかなる領域にも浸透しています。それは、もちろん宇宙開発の分野も例外ではありません。本学科にも宇宙開発に興味を持っている学生は少なくなく、卒論発表の終了後にJAXA(宇宙航空研究開発機構)の本部がある筑波宇宙センターの見学を行いました。宇宙飛行士養成棟、宇宙ステーション運用棟、総合環境試験棟、研究開発棟、準天頂衛星追跡管制棟の各施設を見学させていただきました。改めて、情報通信技術が宇宙開発に密接につながり、寄与していることを確認した見学会となりました。

(文責:情報工学科教授/田中 博)

## 4年生が学会で賞を受賞

情報工学科4年生(平成26年度卒業)の海老原 樹さんが、電子情報通信学会 知的環境とセンサネットワーク研究会主催のセンサアプリケーションアイデアコンテストに、「センサネットワークとクラウドを用いた"やる気を維持する"創生電力マネージメントシステム」を応募し、イノベーション賞を受賞しました。受賞した大学名は、神奈川工科大学、東京大学、慶応大学(掲載順)となっています。

海老原さんが作成したシステムは、エアロバイクを漕ぐことで発電し、かつ漕ぐことで実際の街中を走っているかのような映像を表示するシステムです。

海老原さんは、現在大学院に進学し、引き続き研究に励んでいます。以下は、海老原さんの感想(抜粋)です。「イノベーション賞を受賞した時は、自分のやっている研究を評価して頂いたことを嬉しく思いました。私の研究は今年度からスタートしています。今回のコンテストは、私の研究を正式に外部に出して評価してもらった初めての機会でした。そこで、このような賞を頂けたことで、より一層研究に励むためのモチベーションとなりました。」

また、海老原さんの活躍が、TBSの「未来の起源」(1月4日(日)午後11:09放送)でも紹介されました。

(文責:情報工学科教授/五百蔵 重典)



大塚知明先生(研究会委員長・慶応大学)と海老原 樹さん

システムの説明をしている海老原さん

# 情報ネットワーク・コミュニケーション学科

## 新入生 フレッシュヤーズ・ガイダンス開催

今年もたくさんの新入生を迎え、4月6日、7日にフレッシュヤーズ・ガイダンスを実施しました。まず、学科長からの話や教員紹介があり、その後はクラスごとに分かれて懇談会がありました。履修等の相談コーナーも設けられていたので、これからの学生生活に対する不安が少し解消できたことと思います。ランチタイムは全員で立食パーティーでし

た。ビュッフェスタイルだったので、たくさんの人とコミュニケーションをとることができたのではないのでしょうか。ここには大学院生も数名参加してくれました。「大先輩」から聞く話は、新鮮で、ためになることばかりだったと思います。まだまだ心細いこともあるかもしれませんが、新しい環境に早く慣れて、充実した学生生活を送ってください。



ガイダンス会場の様子

1クラス

2クラス

3クラス

立食パーティーの様子

## 平成26年度 学生の学会発表

情報ネットワーク・コミュニケーション学科の研究室では、学生自身の研究成果を積極的に学外で発表することを推奨しています。平成26年度も多くの学生が発表を行いました。以下に発表を行った学生(一部)を掲載します。

太田 亮祐(海野研究室) 電子情報通信学会・ヒューマン情報処理研究会・沖縄/松島 和輝(海野研究室) 電子情報通信学会・ヒューマン情報処理研究会・沖縄/石塚 貴(岡本学研究室) SCIS2015・小倉、情報処理学会全国大会・京都/曾根田 健太(岡本学研究室) ICCRD 2015・Ho Chi Minh City ,Vietnam /伊藤 茜(岡本学研究室) ICCRD 2015・Ho Chi Minh City ,Vietnam /佐久間 政碩(岡崎研究室) DICOMO2014・新潟 /増田 裕仁(岡崎研究室) DICOMO2014・新潟/尾崎 甲子郎(岡崎研究室) IEICE総合大会・立命館大学 /佐久間 政碩(岡崎研究室) IPSJ全国大会・京都大学 /陳 致豪(岡崎研究室) IPSJ全国大会・京都大学 /石田 時大(岡崎研究室) IPSJ全国大会・京都大学 /和田 致知(中村研究室) 情報理論とその応用シンポジウム・富山 /中野 智仁(塩川研究室) 知的環境とセンサネットワーク研究会・南紀白浜 /井上 孝重(塩川研究室) 知的環境とセンサネットワーク研究会・南紀白浜 /山野辺 史久(塩川研究室) NCSP2015・クアラルンプール: マレーシア /山田 拓実(塩川研究室) 知的環境とセンサネットワーク研究会・東京 /太田 亮祐(塩川研究室) 知的環境とセンサネットワーク研究会・東京

## 本学科の就職支援活動

情報ネットワーク・コミュニケーション学科では、学科就職室を学生支援拠点として、学生の皆さんの就職活動を、様々な角度からサポートしています。

就職への意識が高まる3年生の秋から就職室を使う学生が多くなるので、この時期に「就職室ガイドツアー」を実施しています。このツアーでは「就職の高い壁」を乗り越える心構えや、就職室の利用方法、先輩方の就職先、就職活動とは何かなど、研究室ごとにレクチャーしています。また、3年生全体に対して「院生、学部4年生内定者が語る就職活動体験」と題した講演会を実施し、就職活動の最前線の状況に早くから触れて貰っています。

また、3年後期から4年生にかけて、各研究室から「就職係」の学生を1名選出しています。4年生になると「就職係」は毎週就職室に立ち寄って就職室からの連絡を研究室に持ち帰る役割を担います。さらに研究室のメンバーの様子を就職室に伝え、就職室ではその情報を元に、学生それぞれに合った就職活動のサポートを行っています。研究室の中に、就職活動に行き詰っているようなメンバーがいた場合には、就職係が率先して声掛けを行います。同じ思いをしている仲間との会話には励まされるだけでなく、お互いが内定を勝ち取るための強い原動力にもなるようです。就職活動を成功させるためには情報交換も欠かせないものであり、ときには実際に社会で仕事に就いている先輩(卒業生)の経験談を話す場になることもあります。

就職室と研究室が一体となって「内定」というゴールを目指すことで、就職活動に対するモチベーションアップにつながり、高い内定率を達成しています。



## 研究 紹介 からだを守る免疫を参考にしてセキュリティを強化!

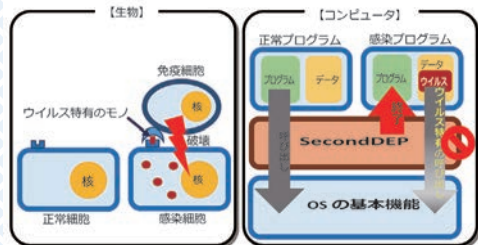
情報ネットワーク・コミュニケーション学科 岡本 剛研究室

岡本 剛研究室では、コンピュータがウイルスに感染するのを防ぐために、からだを守る仕組みをコンピュータに応用する方法を研究しています。例えば、皆さんが風邪を引くと、熱が出たり、咳が出たりと、つらい思いをしますが、安静にしていると、からだは元の健康な状態に回復することは皆さんもご存じの通りです。もう少し、その仕組みを詳しく見てみましょう。ウイルスは、細胞の中に入って、細胞の機能を使って自己増殖します。感染する細胞が肝臓の細胞であれば、肝炎を発症します。そんなウイルスに対して、免疫は、感染した細胞を破壊してウイルスの増殖を抑えます(※これ以外にも免疫には

時に、破壊された細胞は、近隣の細胞の分裂により元の状態へ回復します。このように、からだは、免疫で感染細胞を破壊するとともに、細胞分裂によって元の状態へ回復します。このような仕組みをコンピュータに応用する方法を研究しています。

最近の研究では、ウイルスがプログラムの中へ侵入したとき、直ちにそのプログラムを終了させるSecondDEPという仕組みを開発しました。SecondDEPは、生物に喩えると、免疫の役割を果たします。SecondDEPは、免疫のように、【ウイルス特有のモノ】を見つけてます。コンピュータウイルスは、コンピュータの基本機能(Windows API)を呼び出しますが、その呼び出す方法にウイルス特有のモノがあります。そこで、基本機能の呼び出しを監視して、ウイルス特有のモノを見つけます。そして、それが見つかったとき、直ちにそのプログラムを終了させます。一方、回復は、プログラムに備わっている機能を利用します。Internet Explorerをご利用の方ならご存じの自動回復機能などを使います。

コンピュータウイルスも病原体のウイルスと同様に、日々、進化しています。万能薬がないように、ウイルス対策にも万能薬がありません。私たちウイルス対策の専門家は、常に最新のウイルスのテクニックを追跡するとともに予測して、最新の対策技術を提供し続けていく必要があります。



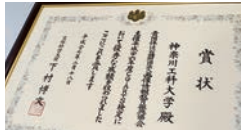
様々な仕組みでウイルスの増殖を抑えます。感染した細胞には、正常な細胞にはない、【ウイルス特有のモノ】(タンパク質など)を細胞表面に持っています。免疫は、それを見つけて、感染した細胞を破壊します。また同

## CG-ARTS協会より、文部科学大臣賞「団体賞」を受賞 本学科4年生の学生が「CG-ARTS協会賞」を受賞

情報メディア学科は、平成26年度「CG-ARTS検定」で延べ200名の合格者を出し、CG-ARTS協会の所管である文部科学省から、優秀な成績を修めた団体として、文部科学大臣賞「団体賞」を受賞しました。

また、大澤孝幸さん(情報メディア学科4年)が、「CG-ARTS協会賞」を受賞しました。

3月10日、CG-ARTS協会の小澤様より、情報メディア学科学科長佐藤教授が、団体賞の授与を受けました。



CG-ARTS協会の小澤様(右)より、表彰状を受け取る佐藤学科長(左)

## 学生が企画をした筐体ゲーム アオモリズムが青森県の 宿泊施設に展示されました

2012年9月に行われた東京ゲームショー2012において、神奈川工科大学ブースに展示された学生オリジナルのアーケードゲーム「アオモリズム」が、青森県三沢市にある宿泊施設「星野リゾート 青森屋」に2014年12月27日より2015年3月31日まで実機展示され、旅館にいられたお客様延べ7500名以上にプレイいただきました。



星野リゾート青森屋での様子

「アオモリズム」は情報メディア学科の学生を中心としてゲームクリエイター特訓の授業から生まれたアイデアを形にした「ねぶたのリズムで青森と北海道が殴り合うリズムゲーム」です。

星野リゾート青森屋での展示では、年末年始には行列が出来る程の好評ぶりであり、青森県の地元の方も含め、多くのお客様に楽しんでいただけました。

星野リゾート青森屋での展示は、2014年8月にゲーム業界最大の技術交換会CEDECに招待展示となった後、朝日新聞にその様子が掲載された事がきっかけで実現しました。地元青森での展示のニュースは新聞やテレビで報じられました。

また星野リゾート青森屋での展示がきっかけとなり、2015年4月から青森県立三沢航空科学館にて「アオモリズム」の長期展示が行われており、ゲームによる地域活性化の可能性を感じる事となりました。

(文責:情報メディア学科准教授/中村 隆之)

## 牧 奈歩美助教が平成26年度情報処理学会 山下記念研究賞を受賞しました

情報処理学会山下記念研究賞は、研究賞として本学会の研究会および研究会主催シンポジウムにおける研究発表のうち特に優秀な論文を選び、その発表者に贈られていたものですが、故山下英男先生のご遺族から学会にご寄贈いただいた資金を活用するため、平成6年度から研究賞を充実させ、山下記念研究賞としたものです。



受賞した助教

平成26年度は36研究会の主査から推薦された計52編の優れた論文に対し、慎重な審議を行い、決定されました。

本学から情報メディア学科の牧奈歩美助教が情報環境領域で受賞し、3月17日に京都大学において開催された第77回全国大会で表彰式が行われました。

受賞に際し、牧助教は「この論文は、自身の制作した短編3DCGアニメーション映画における、制作のコンセプトおよび3DCG表現技術に関して述べたものです。作品だけでなく論文として評価していただけたことを大変嬉しく思います。」と話しました。

### 新任のご挨拶

#### 情報メディア学科 教授 福本 隆司



4月より情報学部情報メディア学科に赴任いたしました福本隆司です。これまで約30年間、コンピュータグラフィックス(CG)を中心に数多くの映像コンテンツの企画・制作に携わってきました。CGの面白さは、一言でいえば自由度。コンピュータを使いこなすことによって得られる表現の幅はとても広いと思います。制作者や開発者にとってコンピュータの中は、さながら映画スタジオや実験室のようです。誰も見たことのないものを見てみたい、見せ続けたい。そのためにはクリエイティブと技術が求められ続けられますが、それを担える人材、なかでもチームリーダーとなり得る人材を一人でも多く育てていきたいと思っています。

【専門】映像コンテンツの制作技術とプロデュース、CGキャラクターアニメーション、ビジュアライゼーションなどCG技術を活用した映像コンテンツの企画開発を新しい表現方法と結びつけながら進めています。

【担当授業科目】メディアコンテンツ制作概論、情報メディアセミナーI・II、情報メディア専門ユニットII

#### 情報メディア学科 助教 安本 匡佑



4月より情報メディア学科に就任いたしました安本匡佑です。これまで身体意識をテーマとし、また何故それが面白いと感じるのかを追求し、CGを用いたアニメーション、ゲーム、インタラクティブアート作品などをハードウェアからソフトウェア、見せ方に至るまで横断的に活動をしてきました。また、IPA末踏ソフトウェア創造事業などでバランスボールを用いたインターフェース、そのほかに和弓を用いたインターフェース等、触覚や深部感覚を応用した実世界指向インターフェースの開発を手助け、近年ではより直感的な操作感をもたらすモバイルインターフェースなどを研究しています。

メディアアート作品の制作過程を見せ、学生にも作品となり得るモノの制作を実践してもらうことで、芸術と工学が融合した分野で活躍できる人を育成できればと思います。

【専門】インタラクティブアート、映像・ゲーム制作、実世界指向インターフェース、デジタルファブリケーション

【担当授業科目】Web制作、情報メディア専門ユニット、情報メディア導入ユニット

## 情報メディア学科の白井准教授、安本助教 が欧州最大のバーチャルリアリティのフェス ティバルにてLaval Virtualアワードを受賞

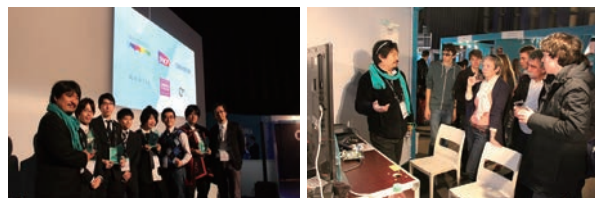
ヨーロッパ最大のバーチャルリアリティ(VR)技術のフェスティバル「Laval Virtual」において世界最高のVRプロジェクトに贈られるLaval Virtual Awardを本学情報メディア学科から2部門同時に受賞いたしました。白井研究室の多重化映像システム「ExPixel」が「Business, Communication & Services」部門、新任の安本助教によるスマートフォン拡張技術「VISTouch」が「Interface & Multipurpose Equipment」部門で重賞受賞となりました。

同時開催の国際会議VRICでは相模原市立博物館との協働成果である「ARゲームIngressを使ったゲーミフィケーションによるフィールドミュージアムの構築」が採択され、白井准教授が発表を行いました。展示発表においては「ExPixel」、「VisTouch」に加え、学生中心のプロジェクト研究において開発された没入型エンタテインメントシステム「Face a la mode」がデモ部門とポスター部門で採択され、4年生の鈴木百合彩さん、安藤歩美さん、津田良太郎さんが英語で発表を行いました。鈴木さんらは今回の経験を「大変だったことは、英語の通じない世界でのオペレーションでした。ジェスチャーで説明したり、ボランティアの現地学生さんや、お子様が体験した時に保護者の方が通訳してくださったり、あたたかいコミュニケーションで乗り切ることができました。また普段では絶対に目にすることのできない風景や建築、おいしい食べ物を満喫し、貴重な体験でした」と話しています。

(文責:情報メディア学科 准教授/白井曉彦)

※詳細は白井研究室ブログにも掲載

<http://blog.shirai.la/blog/2015/04/laval-virtual-2015/>



## 祝!! 看護学科開設

神奈川工科大学に平成27年4月1日、看護学科が仲間入りいたしました。  
81名の1期生が入学し、26名の教員が着任いたしました。

### 看護学科一期生 フレッシュャーズ・ガイダンスが行われました。

看護学科では、日々の相談役を務めるグループ担任と学生生活を共に過ごす同学科学生と交流を深めることを目的にフレッシュャーズ・ガイダンス (FG) を2日間実施しました。

初日の学科教員紹介、グループ担任との食事会では、入学して初めて学科教員を身近に感じてもらったのではないのでしょうか。2日目、懇親会の最後には、皆で輪になり田村学科長をはじめ、クラス担任の掛け声で、4年後にこのメンバーで卒業すること、看護師国家試験に全員合格することを約束しました。そして、外部講師を招いて体験した「笑いヨガ」でのワークでは、相手に合わせて動くことの必要性や、家族として看護専門職として、死に逝く人へ接する姿勢を初めて学びました。2日間のFGを通して



フレッシュャーズ・ガイダンスで行われた「笑いヨガ」と懇親会の様子

学生達も友人ができたようです。女性が多い学部らしく、教員から「静かに!」という声が響きわたりました。

最後に、皆で4年後の自分に向けて手紙を書きました。卒業時に開封する際、この日の楽しい一時が思い起こされ、神奈川工科大学で学び過ごしたことを良かったと思ってくれることを心から祈っております。

## 看護学科開設後初のオープンキャンパス ～体験イベントを実施しました～

看護学科新設後、初めてのオープンキャンパス(6月7日開催)にて、体験イベント「実習室見学ツアー&ミニ実習体験」を実施しました。

<実習室見学ツアーとミニ実習体験の内容>

#### 基礎・精神看護学実習室

「聴診器で自己検診、お腹の音を聴く。採血実習モデルに触れてみよう」

#### 成人・老年看護学実習室

「50年後の自分を体験してみよう。二人一組で、介護される側と介護する側も体験」

#### 母性・小児看護学実習室

「新生児モデルを抱っこして重さを実感したり、オムツ替えなどを体験しよう」

#### 在宅・公衆衛生看護学実習室

「保健師や訪問看護師の仕事を知ろう」

成人・老年看護学実習室でのミニ実習体験では、参加者にゴーグル、耳栓、手袋を装着してもらい、加齢による見えにくさや聞き取りにくさ、手先の不自由さを体験してもらいました。体験イベントの終了後、参加者から「実習室ごとに体験ができ、それぞれの看護の特徴がわかりやすかった」「看護師の仕事が多岐にわたることを改めて実感した」などの感想が聞け、手応えを感じることができました。次回以降のオープンキャンパスでも、参加者に本学の看護学科への興味を深めてもらえる体験イベントを実施していきます。



### 一期生を代表して、クラス委員になってくれた学生より

看護学部 看護学科 梅村 泉美

神奈川工科大学に入学してから2ヶ月が経ちました。4月4日の入学式では顔と名前が一致せず、これから4年間やっていけるのか不安でした。

4月6日、7日のフレッシュャーズ・ガイダンスをとおして、グループ活動で様々な人たちと関わり仲良くなっていくことができました。授業が本格的に始まり、90分授業にも少しずつ慣れてきて、大学生活がとても楽しいです。

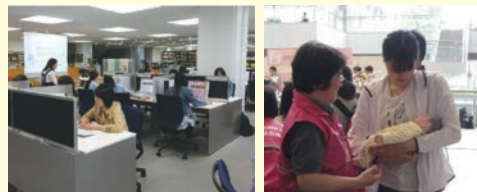
一期生ということで先輩もいなくて、不安もありますが、81名全員で国家試験に合格できるように頑張っていこうと思います。

### 授業紹介

～高校の学習から大学への学びをスムーズに移行するための～

## 『スタディスキル』

この授業は、初年次教育としての科目で、看護学科では、全教員が関わります。前半では大学での学び方や論理的思考、授業ノートのとり方、レポートの書き方、情報収集・文献検索の方法、プレゼンテーションの方法について、講義と演習を通して学びます。後半ではグループワークを通して、グループ討議、リーダーシップ、メンバーシップを体験しながら、問題解決思考の過程を学びます。つまり大学生としての基本的なスタディスキルを修得する授業です。現在は後半のグループワークにさしかかったところで、10グループに分かれてグループ討議をしながら大学での学び方を深めていきます。



# CLUB ACTIVITIES クラブの活躍

## 理工系大学初の関東リーグ昇格をめざすサッカー部 モットーは「考える」こと。人間としても大きく成長!

横浜国立大学、横浜市立大学など県内大学8校が加盟している「神奈川県大学サッカーリーグ」の前期(4~6月)リーグ戦で開幕から4戦連勝をするなど好成績を収め、初めての優勝争いをしています。今後はさらに上のリーグ「関東大学サッカーリーグ2部」をめざす勢いです。これまでの歴史の中で「関東大学リーグに昇格した理工系大学はない」というジンクスを打ち破る!。弱小だったチームを数年間で強豪に鍛え上げた齋藤監督にお話をうかがいました。



## 8校加盟の神奈川県大学サッカーリーグで2位の快挙 ようやく花開いた“思考重視”

**編集部:**6月現在の平成27年度神奈川県大学サッカーリーグ戦の結果はいかがでしたか?

**齋藤監督:**このリーグは前期がら、6月、後期が9、10月の計4か月間、ホーム&アウェイ方式で総当たり戦を行って順位を決めます。まだ、前期の段階ですが、初めての優勝争いをしています。



**編集部:**堂々たる成績ですね。

**齋藤監督:**はい。ここで後期も2位以内に入ると関東大学サッカー2部リーグの昇格戦に挑戦することができ、勝ち残れば、関東大学サッカー2部リーグへ昇格、さらに2位以内に入ると関東大学サッカー1部に昇格することができるのです。これまでの大学サッカー界の歴史では、理工系大学が関東大学サッカーリーグ2部に昇格したことはありません。ですから初の快挙を達成しよう!と、選手ともども燃えているところです。

**編集部:**神奈川工科大学サッカー部の特徴についてお聞かせ下さい。

**齋藤監督:**まずは最高の施設・設備を持っていること。特にグラウンド環境は神奈川県でもトップクラス。そして、この環境を利用して、さまざまな大会を主催したり、いろいろな方々と交流ができることです。

**編集部:**具体的にどのようなことですか?

**齋藤監督:**厚木市と、市内にあるソニーさんや旭化成さんなどと産官学の交流試合を開催したり、Jリーグの鹿島アントラーズさんと小学生大会を共催したり。身体障害者の方と杖を使うなど相手と同じ条件で試合(アンブティサッカー)も行いました。その他にも、部員の少ない中学・高校のサッカー部を招き合同練習を行いましたし、今年は、シニアリーグの試合も本学で行うことが決まっています。また、本学で行われたわけではありませんが、これらの活動が知られ、昨年度には知的障害者の方々のサッカー大会「ゆうあいピック」にも補助員として参加させてもらいました。

**編集部:**学生たちにとってはどれも貴重な体験ですね。

**齋藤監督:**試合を行うこともそうですが、試合の主催、運営をお手伝いする際には「考える」ことが求められます。例えば、運営をするときは、参加者が何を求めているのか、サッカーに集中できる環境を提供するにはどうすればいいのかなど。サッカーも一歩グラウンドに入れば監督の指示ではなく、攻撃・守備いずれもどう動くのか自分で考えなければなりません。その意味で、「考える」ことを多く経験することが何より大切だと思っています。神奈川工科大学サッカー部の一番の特徴はこの「考える」ことを最大限重視していることで、その成果がここにきて着実に表れてきているのだと思います。

### 齋藤 雄二郎

神奈川工科大学 学生支援本部 学生課職員  
神奈川工科大学体育部連合会サッカー部 監督  
神奈川県大学サッカー連盟 運営委員

勝ち続けると、サッカーだけをしていれば良い、強ければ何をしても許される、という風になりがちですが、大学の運動部員の本来の姿は、文武両道に努め、他の学生の模範となり、地元の方々から応援される存在でなければなりません。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」というように、強くなっているときこそ、謙虚さを忘れないように、これからも指導をしたいと思っています。

## 全国高校サッカー神奈川県予選2位の学生も 実験・実習との両立が自らを鍛える

**編集部:**電気電子情報工学科2年の米山竜司さん、ご自身の経歴と入部を決めた理由についてお願いします。

**米山さん:**経歴は神奈川県立座間高校出身でサッカー部に所属。2年生のときはベンチメンバーで、3年生の時はスタメンで全国高校サッカー神奈川県予選に出場し2年連続で準優勝しました。

**編集部:**その大会はいわゆる高校サッカーの甲子園ですね。試合の様子も神奈川テレビ(TVK)で中継されたとか。入部した理由については?

**米山さん:**入学してからは勉強一筋と考え普通の大学生活を送っていたのですが、どうも物足りなさを感じて、徐々に「本気でサッカーをやりたい」という思いが強くなり、入部しました。

**齋藤監督:**ちなみに彼は昨年冬に神奈川県選抜に選ばれました。通常は1~3位のチームからしか選ばれないのですが、神奈川工科大学は5位にもかかわらず選ばれました。彼の選出は異例中の異例。それだけ高く評価されたのだと思います。

**編集部:**ロボット・メカトロニクス学科4年の渡邊岳慶さんは、3年間続けてきて現在キャプテンだそうです。自分自身で成長を実感していますか。

**渡邊さん:**私は小学生から高校生までサッカー漬けの毎日でした。いつも指導する先生に従っていればよかったのですが、神奈川工科大学のサッカー部に入部すると齋藤監督がおっしゃったように、何よりもまず「考える」。また理系ですから実験・実習も多い。当然のように勉強と両立することも求められます。結果、考えることによる思考力、周囲の人たちと協調するコミュニケーション力、さらには両立に求められる忍耐力と持久力、入部して丸3年これらが確実にできてきたと実感しています。

**編集部:**現在、就職活動中ですが、どのような分野を考えていますか?

**渡邊さん:**私はスポーツに関わる仕事に興味があります。また、大学では運動力学や人間工学などから人の動きの特性について学んできました。そのため、スポーツ関連メーカーへの入社を目標にしています。

**編集部:**サッカー部の今後の課題と目標についてお聞かせ下さい。

**齋藤監督:**まずは優勝して関東サッカーリーグ2部に昇格することが最大の目標です。そのためには技術・技量の向上はもちろんですが、再三強調しているように「考える」ことの徹底です。これはサッカーの上達だけでなく、人間としての価値も高めますから、今後とも意識してあらゆる場面で考えさせようと思っています。最近では米山くんのように「将来プロになりたい」という学生も入部してくるようになり、いい意味での刺激も受けています。「理工系大学は弱い」。そんな偏見を吹き飛ばしたいですね。それと最高の環境を与えてくれた大学に対して、サッカーを通じて少しでも恩返しができたらと思っています。



◀右:渡邊岳慶さん(キャプテン)ロボット・メカトロニクス学科4年(新潟県立新津南高等学校出身)「思考力や忍耐力、持久力が確実に身についたと実感しています。」  
左:米山竜司さん 電気電子情報工学科2年(神奈川県立座間高等学校出身)「大学に入り、本気でサッカーをやりたいと入部しました。」



# office information

## 経営管理本部

### 総務課

#### 幾徳学園 役職理事の創設および役員の変更等について(4月1日付け)

専務理事 谷村 浩二  
石上 純男  
常務理事 河野 隆二

#### 【理事就任】

尾崎 亮典(5月1日付け)

委嘱発令 経営管理本部総務担当部長および経営管理本部事務システム担当部長

保坂 精一(5月29日付け)

委嘱発令 経営管理本部庶務担当部長

#### 【特別称号付与】

理事・特別顧問 高橋 正

#### 【理事退任・特別称号付与】

(5月1日付け)顧問 柴田 淳之助(4月30日理事退任)

(5月29日付け)顧問 後藤 至宏(5月28日理事退任)

## 職員の人事発令

#### 【兼務解除】(3月31日付け)

経営管理本部庶務課長兼務解除 保坂 精一

#### 【新規採用】(4月1日付け)

IR・企画推進室長	森 武昭
庶務課 准主任	池田 君代
教務課(教員採用試験対策室)	大畑 多津雄
学生課	安藤 美佐子
工学教育研究推進機構(KAIT工房)	須山 雄二郎
IR・企画推進室(中退防止対策担当)	帯川 ひろみ
IR・企画推進室(高大接続担当)	渡辺 英司
工学教育研究推進機構 技術支援室	安倍 和弥

#### 【事務職員 昇進昇格】

庶務課長 小川 浩子

#### 【事務職員 配置転換】

学生支援本部キャリア就職担当部長・卒業生支援担当部長 中込 寛

#### 【専任担当】

学生支援本部教育開発センター支援室 係長 根岸 忠宏

#### 【兼担当】

学生支援本部教育開発センター支援室担当部長兼担当 平野 多嘉弘

#### 【兼務】(5月1日付け)

学生支援本部図書館サービス課長兼務 鈴木 勉

### 訃報

ここに生前のご厚誼に対しまして、深く御礼申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科講師

白瀧 順 様(享年66歳)  
平成27年4月26日逝去

## 管財課

### エコ活動の報告

今年度もエコ活動をスタートしました。

◆4月3日、K3号館周辺にて、神奈川県環境農政局環境部資源循環課とECO推進チームみどりで

でのタイアップで、レジ袋削減普及啓発活動を実施し、マイバッグ・ボールペン・ティッシュを配布しました。

◆大学構内美化活動(花の苗植え、芝地の除草等)を4月に2日間行い、合計で約60名の学生の皆さんが参加しました。

◆省エネルギー対策として、5月1日からクールビズがスタートし、周知ポスターを各講義棟へ掲示しました。また冷房設定温度28度推進も実施します。

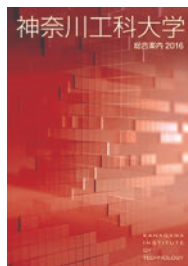
◆5月17日、相模川クリーンキャンペーンにECO推進チームみどりの学生34名が参加し、河川敷を1時間ほど掛けて清掃しました。



グリーンキャンペーンに参加した学生たち

## 企画入学課

### 刊行物のお知らせ



【総合案内2016】



【研究室ガイド2016】

## 学生支援本部

### 教務課

### 今後の予定

前期授業終了・定期試験期間・後期ガイダンス及び成績表配付・後期授業開始の実施

<前期授業終了>7月30日

<前期定期試験期間>7月31日~8月5日(日曜除く)

<前期追試期間>8月27日~8月31日

<夏期休業期間>8月6日~9月17日

<後期ガイダンス及び成績表配付>9月18日

<後期授業開始>9月19日

## 教員採用試験対策室

### 平成27年度 公立学校教員採用試験の受験に向けて

○6月29日~7月3日 直前対策講座

7月の採用試験の合格に向けて、教職教養及び一般教養に加え、専門教科の最終チェックも行い、本番に備えます。

○7月中 各都道府県で採用試験の実施 → 1次合格発表(7月下旬~8月上旬)

○8月8日~ 2次試験対策

1次試験合格者に対し、2次試験の受験に向けて、模擬授業や面接試験等人物試験の対策を重点的に実施します。

### 平成28年度の受験に向けた対策をスタートします。

○7月上旬 教員採用試験対策スターティングガイダンス(全学年対象)

○9月8日~9月17日(8日間) 夏期集中講座(基礎)の実施(講師:東京アカデミー)

大手予備校の講師から受験に必要な基礎を徹底的に学び、本格的な受験対策を開始します。

○9月17日 神奈川県本年度実施問題による模試 神奈川県が本年度実施した問題に挑戦し、1年前の各自の実力の測定と、今後の目標を定めるための参考にします。

○10月上旬~12月(3か月間) 「後期受験対策講座」の実施(空き時間を利用)

後期の空き時間や5限を利用して時間割を作成し、受験に必要な対策(一般教養・教職教養・専門教科・論作文・模擬授業研究等)を実施します。

## 学生課

### 「父母説明会・個別相談(本学)2015」(仮称)の開催について

「父母説明会・個別相談(本学)2015」(仮称)は次の日程で開催を予定しております。本学の支援体制のご説明やキャンパスツアー、およびクラス担任との個別相談の時間も設けております。5月に開催した新入生父母説明会、地区別父母説明会に参加できなかった皆様は是非この機会をご利用いただきご参加ください。尚、案内状の発送は8月上旬を予定しております。

【父母説明会・個別相談(本学)2015】(仮称)

開催日:9月26日(土)

場所:神奈川工科大学 K3号館他

## キャリア就職課

### 本学主催「第5回合同企業説明会」を7月6日、7日に開催

本学主催の合同企業説明会は、今年は3月から開催し、毎月1回実施しています。これまでに950社を超える企業に参加いただいております。

昨年度は合計1,222社に参加いただき、内定者の49.4%がこの合同企業説明会に参加した企業へ内定しました。本学の学生を求人対象としている企業の説明を直接聞くことができる機会です。有効に活用してください。

7月6日(月)、7日(火)、第5回目の合同企業説明会を開催します。大規模に行う合同企業説明会としては最後となります。就職活動中の4年生、大学院2年生の皆さんの参加をお待ちしております。

<日時>7月6日(月)、7日(火)

<場所>レムプラントホテル厚木(小田急線厚木駅徒歩5分)

## 太陽電池の「ホットスポット」リアルタイム監視システムを開発

電気電子情報工学科 板子 一隆教授

日刊工業新聞  
2015年 平成27年 6月12日 金曜日



### 太陽電池の「ホットスポット」リアルタイム監視

【横浜】神奈川工科大「ホットスポット」は、太陽光発電システムの電熱制御装置。従来の太陽電池は、長時間撮影できるモジュールの故障原因のル自体の温度が上昇する。パワコンに内蔵する「ホットスポット」をリアルタイムで、最大電力点追跡（MPPT）を利用して、発電パワをリアルタイムで監視するシステムを開発しているが、パネル温度の監視に不足しているが、パネル温度をリアルタイム監視するシステムを開発している。リアルタイム監視システムは、パネル温度が正常な範囲に保たれるように制御する。リアルタイム監視システムは、パネル温度が正常な範囲に保たれるように制御する。

板子教授らは同システムを利用した製品にも取り組む意向で、産学連携により温度変化を捉え、ホットスポットを特定して、コトと労力が掛かっていた。同システムは、リアルタイムで監視するシステムを開発している。リアルタイム監視システムは、パネル温度が正常な範囲に保たれるように制御する。

日刊工業新聞／平成27年6月12日掲載

## ドキュメンタリー番組に技術協力・出演

情報工学科 宮崎 剛准教授

情報工学科の宮崎 剛准教授が、6月13日放送の日本テレビ「リアリTV」の中で、宮崎准教授が研究を行っている「機械読唇」技術を用い、過去の映像から発話内容を解析する様子が紹介されました。



日本テレビ「リアリTV」／平成27年6月13日放送 番組収録の様子

## 体脂肪、睡眠状態などのデータを「見える化」

KAIT健康推進プロジェクト／事務システム課

教育  
学生への体調・思い データに

### 日常を「見える化」振り返り促す

体脂肪率や睡眠も記録 就活に活用期待

【横浜】神奈川工科大学は、学生への体調・思い データに「見える化」を推進している。体脂肪率や睡眠状態などのデータを「見える化」し、振り返り促すことで、健康意識の向上や、就職活動でのアピールに活用できることを期待している。

朝日新聞／平成27年5月9日掲載

## 学生の制作した筐体ゲーム機が科学館に展示されました

情報メディア学科 中村 隆之准教授

### 青森と北海道が対決!!

航空科学館にリズムゲーム

【三沢】青森県と北海道が対決するリズムゲーム「アオモリズム」が20日、三沢市の県立三沢航空科学館に登場し、来場した子どもたちを集めている。同館の担当者は「アオモリズム」の魅力を伝えている。

このゲームは、リズムゲーム「アオモリズム」の魅力を伝えている。このゲームは、リズムゲーム「アオモリズム」の魅力を伝えている。

デーリー東北／平成27年5月1日掲載

## 自動車技術会「技術教育賞」を受賞

自動車システム開発工学科 狩野 芳郎助教

自動車技術会賞など発表

技術貢献賞 守谷氏(本田) 技術教育賞 狩野氏(工大)

【横浜】自動車技術会が、技術貢献賞と技術教育賞を授与した。守谷氏は、自動車システムの開発に貢献したと認められ、狩野氏は、技術教育に貢献したと認められた。

日刊自動車新聞／平成27年5月22日掲載  
交通毎日新聞／平成27年5月25日掲載

## 「看護医療棟」開設披露式典・祝賀会を開催

### 新施設をお披露目

神奈川工科大

【横浜】神奈川工科大学は、看護学部を開設した。新設された看護学部は、最新の設備が揃った。祝賀会を開催し、関係者から祝福を受けた。

小宮学長のあいさつに耳を傾ける関係者

1970年の開学以来、工学分野のみならず健康・医療バイオ、栄養生命学など幅広い教育を行ってきた。今年4月に、看護学部を開設した神奈川工科大学は、新設された看護学部(定員80人)と工学部臨床工学科(定員40人)の開設披露式典を行った。

小宮学長は「これからは健康がより重視され、医療の高度化が進む。両学科は人の命を守るスペシャリストの育成を原点に教育を進めていく」と述べた。

タウンニュース／平成27年6月5日号掲載

# 神奈川工科大学 2014年度 海外研修

## 海外専門分野研修プログラム

2015年2月～3月、神奈川工科大学国際プログラムである7つの「海外専門分野研修」と「海外英語研修プログラム」が行われました。国際性豊かな人材育成を目指して、神奈川工科大学は工科大学として他大学にはない、「オンリー・ワン」プログラムを展開しています。

### 海外機械工学研修I (1ヶ月)



自動車エンジン、トランスミッション等を使った実習、ワークショップ中心の授業を行いました。(参加人数:6名)

研修先: サウスシアトル・カレッジ(アメリカ)

### 海外航空宇宙学研修 (1ヶ月)



航空機エンジンを通じた実習型の研修を行いました。(参加人数:6名)

研修先: サウスシアトル・カレッジ(アメリカ)

### 海外バイオ研修I (1ヶ月)



DNAの制限酵素処理、電気泳動、形質転換(遺伝子組換え)解剖などの実験中心の授業です。また、アメリカの研修先では英語を、台湾の研修先では中国語を学びました。(参加人数:6名)(アメリカ)(参加人数:8名)(台湾)

研修先: サウスシアトル・カレッジ(アメリカ)、明道大学(台湾)

### 海外化学研修I (1ヶ月)



分子模型の作成、化学結合、中和反応滴定、酸化還元滴定などの実験中心の授業を行いました。(参加人数:3名)

研修先: サウスシアトル・カレッジ(アメリカ)

### 海外情報メディア研修 (1ヶ月)



デジベン工科大学では、ゲーム開発プログラムを主体とし、レイクワシントン工科大学では、2次元グラフィックデザインを中心に授業を行いました。(参加人数:13名)

研修先: <ゲームデザイン>デジベン工科大学(アメリカ)、<2次元グラフィックデザイン>レイクワシントン工科大学(アメリカ)

### 海外自動車工学研修 (2週間)



フォーミュラカーを教材としてエンジンやサスペンションを中心に自動車工学の基礎を学びました。(参加人数:11名)

研修先: オックスフォード・ブルックス大学(イギリス)

### 海外創造工学研修 (10日間)



組み込みシステムに関する知識や技術、家電制御に活用されるプログラム制御など具体的な事例を基に学びました。(参加人数:20名)

研修先: 国立シンガポール大学(シンガポール)

### 海外英語研修プログラム (1ヶ月)



協定大学との特別協定プログラムによる単位認定研修を行いました。

研修先: サウスシアトル・カレッジ(アメリカ)

## 中・高校生対象 ITに関する「夢」を語る「IT夢コン」を今年も開催します!

### 「夢」を語ることを通した未来を担う若い人材の育成支援

IT夢コンテスト(IT夢コン)は、全国の中学生・高校生・高専生(3年生以下)を対象に、IT(情報技術)で実現できる未来の社会や新たなサービスなどに関する「夢」を語ってもらうコンテストです。本コンテストを通して、中学生・高校生・高専生のITに対する理解や興味を高めるとともに、創造力・問題発見能力・コミュニケーション能力の向上を目的とし、2011年から開催しています。昨年は、273名からの応募がありました。

### 神奈川工科大学がIT夢コンを主催する理由

神奈川工科大学の教育の目標は、(1)創造する力、(2)豊かな人間性、(3)コミュニケーション能力、(4)基礎学力の4項目です。神奈川工科大学では、在学中の学生が、これらの目標を達成できるように、教職員が創意工夫して、授業、研究、課外活動支援などを実施しています。また、神奈川工科大学は、科学技術立国に寄与するために、社会との連携強化も目標としています。

創造力、コミュニケーション能力の向上や、情報技術に対する理解を深めることを目標とするIT夢コンは、神奈川工科大学が、日々の活動を通して培ってきたノウハウを活用して、未来の社会を担う人材を育てる中学校、高等学校、高等専門学校と連携する活動として、非常に有益な活動になると考えています。

また、大学設立時からの理念に加え、小宮学長が神奈川工科大学の学長に就任してからは、さらに「学生本位主義」の理念の下、学生の教育環境の充実、一人ひとりの伸ばす教育に力を入れてきました。この学習者本位の考え方は、大学の教職員に浸透し

ており、以下に示すようにIT夢コンの運営方法にも活かされています。

### 今年のコンテスト

今年は夢のテーマを絞り、「ITで解決する社会の問題」、「ITを活かした未来の〇〇」、「ITで盛り上げる東京オリンピック」からテーマを選択いただいています。これは、テーマを絞ることで、より深くテーマについて学習し、考えてもらうことができるのではないかとのお思いからです。また、「ピア賞」として、参加した生徒さん方が選出する賞を新設するとともに、参加された生徒さん方の相互交流を活性化するためのポスターセッションを行う予定にしています。

最終審査として、書類選考で絞られた約30件から準決勝を通過した10件に対して、質疑応答を含めたプレゼンによって各賞を決定いたします。審査員として神奈川工科大学教員、学生に加えて、神奈川県教育委員会の先生、企業の研究所の方、タレントの蒼あんな・れいなさんを迎えて、神奈川工科大学情報学部棟のメディアホールで7月25日(土)に開催いたします。皆様のご来場と出場者への応援をお願いいたします。

本コンテストの詳細は、<http://kait.jp/yume/>で見ることができます。



## 名誉教授記 授与式を挙行

6月18日、図書館特別閲覧室において、名誉教授記授与式が執り行われました。小宮一三学長より、4名の方々に名誉教授の称号が授与され、永年に亘り本学の教育・研究の分野において、多大な貢献をされたことに対し感謝の言葉が贈られました。

### <名誉教授記 授与者>

- 三澤 章博 名誉教授(元機械工学科教授)
- 富川 武彦 名誉教授(元情報メディア学科教授)
- 森 武昭 名誉教授(元ホームエレクトロニクス開発学科教授)
- 菊地 幹夫 名誉教授(元応用バイオ科学科教授)

